

〔論 説〕

# 英語における動詞「震える」の多様性： その情動的要因の分析

高 木 道 信

## 1. はじめに

小論は、第12回国際応用言語学会・世界大会のシンポジウムで筆者が英語で発表した「類義語間に見られる強さの程度の差」<sup>(1)</sup>及び、この中間報告後に刊行された『動詞の類義語の研究—日英語の比較の観点から—』で担当した<SHAKE (震える) に類する動詞：Shake, Tremble, Quake, Quiver, Shiver, Shudder>に論考の基盤を置いている<sup>(2)</sup>。この共同研究で、小論で取り上げるセットと併せて、<SURPRISE (驚く) に類する動詞：Surprise, Astonish, Amaze, Astound, Startle>と<HATE (嫌う・憎む) に類する動詞：Hate, Dislike, Detest, Abhor, Loathe>の2セットも、筆者が担当した。

自動詞「震える」の情動的要因の描写は、感情動詞 (Emotion verbs) を扱った他の2セット、つまり、高木 (2000) 及び高木 (2001) と密接な関係がある。前者の「動詞の類義語間に見られる強さの程度の差—Surpriseとその類義語の事例—」

---

(1) 12th World Congress of Applied Linguistics (AILA '99 Tokyo) August 6, 1999. "A Study of Synonymous Verbs in English—Degree of Intensity" (JACET Special Interest Group: English Usage).

(2) 『動詞の類義語の研究—日英語の比較の観点から—』大学英語教育学会 (JACET) 語法研究会編 (2000). 執筆担当者は、ウォーレン・エリオット, 喜田慶文, 小谷悠紀子, 楠瀬淳三, 森戸由久 (副代表), 田島穆, 高木道信 (代表), 矢田裕士, 山崎聡 [アルファベット順] である。

で触れた<SURPRISE (驚く) に類する動詞>は、受動形による外部からの刺激に対する反応であり、後者の「嫌悪感の諸相—動詞hateとその類義語の事例—」で触れた<HATE (嫌う・憎む) に類する動詞>は、他動詞としての外部からの刺激に対する反応である。今回の論考も、外部からの刺激に対する反応であり、言語に普遍的な同義性 (synonymity) のメカニズムを解明する糸口となろう。これら各セットに共通する、驚き・恐れ・憎しみ・怒り・悲しみ等の情動に関する心理構造の比較も試みたい<sup>(3)</sup>。

### 1.1. 「震える」に関する語の少年少女向け辞典の扱い方

前記の<SHAKE (震える) に類する動詞: *Shake, Tremble, Quake, Quiver, Shiver, Shudder*>の選定の基準は、他のセットを担当した共同研究者間の意見の交換にもよるが、筆者は以下の3種の辞書の解説・用例も参考としている。大学英語教育学会・語法研究会 (Special Interest Group on English Usage) は、その成果をわが国の英語教育へ反映させることも標榜しており、英語の母語話者の語彙習得の過程を知ることは、示唆に富むと思われるからである。

#### 1.1.1. 具体から抽象へ (ステップ1)

小論で取り上げる類義語を、英語母語話者が幼少時に習得する過程は、具体的なものから抽象的なものへ移行することは容易に頷ける。一例を最も幼稚なレベルの小児向けの絵入り辞書から引用すると、「振る」の意の他動詞shakeに関しては次の例文が見られる<sup>(4)</sup>：

Ozzie and Pelican **shake** feet when they meet.

(3) 『国民百科辞典2』(平凡社, 1962)の「感情」の項(248ページ)には以下の記述がある：

「<情緒(情動)>とは種々な身体的生理的変化を伴う強い一時的な感動体験であり、全生活活動が情動を中心として混乱動揺する状態をさす。快、不快、美醜、好悪などを感ずる自我の状態は感情に属するが、怒り、恐れ、喜び、悲しみ、驚き、憎しみ、愛情、不安、希望などの体験は情動である。

(4) *Richard Scarry's Storybook Dictionary*. (1991). London: Western Publishing Company Inc.

Mummy is **shaking** dust out of her mop.

人間の震えに直接関係のない上記の2例は小論では除外する方向で論を進めるが、後述するように、[-Animate]の素性が[+Animate]に移行する比喩化の過程と人体の部分との関係を比較する上で、人間以外の震えにも触れることがある。

他方、自動詞のshiver（震える）に関しては、以下の用例がある：

Smiley is taking a cold shower. Brrrrrrrrr!

He is **shivering**. His teeth are chattering.

対象となる読者が精神的に未熟であるので、肉体的な寒さの描写のみである。この例では、寒さという震えの要因が具体的であり、動詞shiverが特定されている。まだ、「前置詞＋名詞」の形をとるshiver with coldの成句には至っていないが、より抽象度の高いステップに移行していく過程にある。shakeも「震える」の意では登場しない。なお、この辞書にはtremble, quake, quiver, shudderの語は集録されていない。

### 1.1.2. 震えの要因の明確化（ステップ2）

次に第2のステップとして、絵入りではあるが6分冊のボリュームで情報量が多く、前置詞プラス名詞の形をとり要因を端的に明示している辞書を取り上げてみよう<sup>(5)</sup>。この辞書には、人間の震えに関係のある前記の6語が収録されており、以下の解説・用例がある（引用の順序は、人間の震えに関係のあるものを優先させている）：

i) trembleの第1項：To shake slightly from a strong feeling such as fright, cold, or nervousness.—Jack trembled with eagerness as he unwrapped his present.

ii) shiverの項：Shake or quiver from cold, fright, or excitement.—The coatless boy shivered.

iii) shudderの項：Tremble with fear, horror, or disgust.—The ghost story Jack told made us all shudder.

(5) *The Golden Book Illustrated Dictionary*. (1961). New York: Golden Press.

- iv) shakeの第3項: Tremble—Mary shook with excitement.
- v) quakeの項: Tremble; shake.—Mary quaked with excitement as the time drew near for her party.
- vi) trembleの第2項: Shake slightly.—The wind made the leaves *tremble*.
- vii) quiverの項: Tremble or shiver gently.—The leaves *quivered* in the breeze.
- viii) shakeの第2項: Clasp (hands).—The minister *shakes* hands with the people at the door after the service.

ここに引用する解説・例文に、震えの要因となる部分には波線を、またセット内の他の類義語に-ly副詞を加えて解説している部分には下線を付し、各語の固有特性を見やすくしてみたい。例 i) ~ v) の波線部には、前節の肉体的な<寒さ>に加えて、<驚き・苛立ち・神経質・臆病・(心の)動揺・恐れ・怖さ・恐怖>などの精神的に不安定で受動的なマイナス感情が震えの要因として示されている。震えの要因は、<熱心・熱意・熱望>などの能動的なプラス感情とか中間的とも言える<嫌悪・興奮>などの意を表す語は少ない。また、tremble, shakeの2語が頻繁に登場し、意味領域の広さを示している。例 vi), vii) は自然界の描写であり、人間の震えには無関係のように思われるが、後章で触れる文学作品からの引用例には、物体の震えと人間の震えがすり替えられた擬人法 (personification) の事例も見られるので、さらに検討してみたい。例 viii) は人間の動作に関するものであるが、明らかに異色であるので、小論で扱う類義語からは除外したい。

### 1.1.3. セット内の類義語6語に見られる要因の比較 (ステップ3)

前節では副詞slightly, gentlyが動詞を修飾している例が見られたが, involuntarily, convulsively等の, より精神的な副詞が登場する解説を載せてある辞書と比較してみよう<sup>(6)</sup>:

- i) <sup>1</sup>tremble 1: to move involuntarily (as with fear or cold): SHIVER 2: to move,

(6) *Webster's Elementary Dictionary*. (1997). New York: G. & C. Merriam Co.

sound, pass, or come to a pass as if shaken or tremulous 3: to be affected with fear or doubt

ii) <sup>1</sup>shudder: to tremble convulsively: SHIVER <*shudder* from cold>

iii) <sup>1</sup>shiver: to undergo trembling (as from cold or fear): QUIVER

iv) <sup>1</sup>quake 1: to shake or vibrate usually from shock or instability 2: to tremble or shudder usually from cold or fear

v) <sup>1</sup>shake 1: to tremble or make tremble: QUIVER 2: to make less firm: WEAKEN <had his confidence *shaken*> 3: to move back and forth or to and fro <*shake* your head> 4: to cause to be, become, go, or move by or as if by a shake <*shake* apples from a tree>

vi) <sup>2</sup>quiver: to move with a slight trembling motion <leaves *quivering* in the breeze>.

上記iv) quakeの解説・用例には前節で見られなかった動詞vibrateが記載されているが、shock, instabilityの語に留意して、第1義と第2義を比較してみたい。これら3種の辞書に記載されている、このセット内の類義語の固有素性と文脈素性は、前述した通り、比喩的な擬人法と係わり合いがあると思われる事例があるので、人の震え以外の「震え・揺れ」も看過できない。なお、quiverには人の震えに関する解説も用例も記載されていない。

## 2. 基本語・中核語に関する情報

このセット内の類義語は、中核をなす基本語の設定が困難で、他の動詞の場合とは異なる。高木(1972)で俎上にのせた自動詞dieは婉曲語法(Euphemism)が根底にあるので、<the most simplest, plainest, and most directive (RHD)<sup>(7)</sup>>であった。また、過去分詞形のsurprisedは<key words or concepts<sup>(8)</sup>(LLA)>であり、他動詞hateは<the simple and general word (RHD)> <the general term (WNDS)>であった

(7) 参考文献・辞書の略称は巻末を参照。前節の< >内は原典によるが、以下< >内は引用部分であり筆者による。

(8) Introduction, F8; p. 1348.

が、今回のセットは特殊な事例である。この根拠は、前述の3セットが人間中心の動詞であるのに対し、今回のセットは以下に引用するように、基本語（以下、基本語と称した場合は、基本語・中核語の両義を兼ねる）と定めたいshake, trembleの2語が、物体・人間の両様に用いられ、意味領域の<共有・派生・併用>があるからである。筆者の学習体験では、自動詞としてのshakeは「揺れる・震える・震動する」で、trembleは「震える・震動する」であり、前者は物体・人間の両様に用いられるが、後者は主として、人間に関して用いられる、という習得過程を経た。英語母語話者でない学習者が、こうした手順で学ぶのは、1.1節の英語圏で発行されている少年少女向けの辞書で見た通りである。また、こうした習得過程は、「<震える> (tremble) を見出し語として、その下位区分に、身震いする、おののく、振動、戦りつ (quake, quiver, shiver, shudder) を解説し、他方、<揺れる> (shake) を見出し語として、その下位区分に、振る、震動する、揺する、揺れ、動揺 (rock, roll, sway, swing, vibrate, wag, wave, waver) を解説している」事例からも伺える<sup>(9)</sup>。まず、この2語が、物体を主語とする事例と人間・体の部分を主語とする事例とを、比較検討してみよう。

体の部分に関しては、次節で触れるheartの字義的 (literal) と比喩的な (figurative) 意味の違いにも、留意すべきである。例えば、LDOCEには以下の解説がある：

<heart 1. the organ inside the chest which controls the flow of blood by pushing it round the body:

*The patient's heart is beating strongly.*

| (fig.) *My heart stood still when I saw her.* (= I was unable to move or think clearly...) (LDOCE)>.

小論では、人間に関し動詞「震える」を中心に論を進めるので、shakeは自動詞・他動詞の両様に用いられるが、tremble, quake, quiver, shiver, shudderは自動詞のみに用いられることが多い点も考慮に入れたい。

---

(9) 金子稔. (1983). 『ロングマン英和和英・基本語辞典』旺文社. p. 346及びp. 405を参照。

## 2.1. RHDの基本語・中核語の扱い方

RHDには、自動詞shakeの単独見出しの項に次の解説がある：

<SHAKE = 1. to move or sway with short, quick, irregular vibratory movements. 2. to TREMBLE with emotion, cold, etc. (RHD)><sup>(10)</sup>.

この項の末尾には類義語セットとして、人または物を目的語にとる他動詞shakeに関して、次の解説がある：

<To SHAKE is to agitate more or less quickly, abruptly, and often unevenly so as to disturb the poise, stability, or equilibrium of a person or thing. (RHD)>.

これに対し、類義語trembleは、以下に引用するように、人間に関して用いられる傾向がある：

<To TREMBLE (used more often of a person) is to be agitated by intermittent, involuntary movements of the muscles, much like shivering and caused by fear, cold, weakness, great emotion, etc.:

*Even stout hearts tremble with dismay.* (RHD)>.

また、同辞典の独立項目に見られる、この語の解説は情動的要因を取り上げ、quake, shiverを類語に挙げている：

<TREMBLE = 1. to SHAKE involuntarily with quick, short movements, as from fear, excitement, weakness, or cold; quake; quiver. (RHD)>.

この辞典に見られる基本語の扱いは、shake, trembleの両語が、それぞれの解説を相互に補足し合い意味領域を<共有>していることを述べており、この傾向は一般的な辞書に見られる。

## 2.2. WNDSの基本語・中核語の扱い方

WNDSのshakeの項には以下の記述がある：

<1. **Shake, tremble, quake, totter, quiver, shiver, shudder, quaver, wobble,**

(10) < >内は辞書類からの引用部分であり、等号の=印は筆者による。以下、基本語・中核語を大文字で示すが、RHDのように原典自体が大文字の場合もある。前述した通り、下線部は震えの様態・強さなどを示し、波線部は震えの要因を示す。詳しくは第3章で述べる。なお、震えの要因を示す語にも< >, < >を付す場合がある。

**teeter, shimmy, dither** are comparable when they mean to exhibit vibratory, wavering, or oscillating movement often as an evidence of instability. (WNDS)>.

不安定な状態 (instability) は、物理的・心理的刺激が引き起すものであるが、小論では前述した通り、人間が「震える」事例のみを扱うことにしたい。同辞典には物体・人間・体の部分に関する以下の解説が続いており、shakeを前出の基本語に相当する語としている：

<SHAKE, the ordinary and the comprehensive term, can apply to any such movement, often with a suggestion of roughness and irregularity

<<the earth itself seemed to *shake* beneath my feet—Hudson>><sup>(11)</sup>

<he **shook** with fear><his body *shook* with laughter>(WNDS)>.

Trembleの項には、波線で示した「震え」の情動的要因を示す事例が、より頻繁に見られる：

<TREMBLE applies specifically to a slight, rapid SHAKING of the human body, especially when one is agitated or unmannered (as by fear, passion, cold, or fatigue)

<<she stood with her hand on the doorknob, her whole body *trembling*—Anderson>>

<<she is so radiant in her pure beauty that the limbs of the young man **tremble**—Meredith>>(WNDS)>.

Trembleの語は人体の震えに似て、水面などを波立たせる場合にも用いられる：

<The term may apply also to things that SHAKE in a manner suggestive of human trembling

<<not a breath of breeze even yet ruffled the water: but momentarily it *trembled* of its own accord, shattering the reflections—Richard Hughes>>(WNDS)>.

擬人法 (personification) に関する比喩的な問題は、7章でセット内の類義語の

---

(11) 二重カッコの << >> 内は文学作品からの引用を示す。見やすくするため原典では改行されていない場合でも改行した個所がある。また用例の前の縦棒と◇印は省略した個所もある。



語源的背景を述べる際に再考したい。

### 2.3. Shakeに関するその他の辞書の情報

小論のタイトルが示すように、本稿では人・体の部分・声の震えに焦点を絞ってきた。「震え」の要因を、明確に細分化している OALD 6 の第 6 項と 7 項を、比較してみよう（以下、各語の特徴を箇条書きで示す）：

<shake = [OF BODY 6. [V]~ (**with sth**) to make short quick movements that you cannot control, for example because you are cold or afraid. [SYN] TREMBLE:

*He was shaking with fear.*

◇*I was shaking like a leaf.*

◇*Her hands had started to shake.*>

<shake = [OF VOICE 7. [V]~ (**with sth**) (of sb's voice) to sound unsteady, usually because you are nervous, upset or angry. (OALD 6)>.

#### 【特徴】

- 1) 前出の 2 つの基本語を同意語としている。
- 2) 日本語でも「ぶるぶる震える」と言うが、肉体的な震えと精神的な震えを同一に扱っている。

以下、体の部分に関するものでも、<悲しみ>を表すが、情動的要因に属さない次の第 3 項は除外する：

<shake = [YOUR HEAD 3. [VN]~**your head** to turn your head from side to side as a way of saying 'no' or to show sadness, disapproval, doubt, etc:

*She shook her head in disbelief. (OALD 6)>.*

また、<怒り>を表すがジェスチャーを示す第 5 項も除外する：

<shake = [YOUR FIST] 5. [VN]~ **your fist (at sb)** to show that you are angry with sb; to threaten sb by shaking your FIST (= closed hand) (OALD 6)>.

次の辞典には、多くの用例が見られる：

<shake = 1. to (cause to) move up and down or from side to side with quick short movements:

*The house shook when the earthquake started.*

- | *She was shaking with laughter / anger / fear.*
- | *Her voice shook with emotion.*
- | *She must have had a very bad fright; she was shaking like a jelly / a leaf. (fig.)*
- | *He was shaking in his shoes (= very nervous) at the thought of making a speech in public. (LDOCE)>.*

- 3) 「家屋が地震で揺れる」用例も混入しているので、人の震えと比較してみたい。
- 4) 「腹をかかえて笑う」用例と<怒り・恐れ>の情動的要因を同一の範疇に含めている。
- 5) 比喩的な慣用句が見られ、shakeの語を用いていても震えの動作が伴わない例もある。

#### 2.4. Trembleに関するその他の辞典の情報

前節と同じ辞典で、この語を検証してみよう。

<TREMBLE = 1. ~(with sth) to SHAKE in a way that you cannot control, especially because you are very nervous, excited, frightened, etc:

*My legs were trembling with fear.*

◇*Her voice trembled with excitement.*

◇*He opened the letter with trembling hands. (OALD 6)>*

<TREMBLE = 1. to SHAKE uncontrollably with quick short movements, usu. from fear, excitement, or weakness:

*He was trembling with rage. (LDOCE)>.*

#### 【特徴】

- 1) この語を他の基本語SHAKEプラス・アルファで解説している。
- 2) 震えの要因として、<nervous, excited, frightened, fear, excitement, weakness, rage>などが挙げられている。
- 3) 「足が恐れで震える／声が興奮で震える」などの「with + 情動」の具体例が見られる。
- 4) 「with + 現在分詞 + 体の部分」の形式も見られる。これは、His hands trembled when he opened the letter.と本質的には同一である。

これらオックスフォード系及びロングマン系の辞典を、それぞれ次の辞典と比較してみよう：

<tremble = SHAKE involuntarily, typically as a result of anxiety, excitement, or frailty:>

*Isobel was trembling with excitement. (NODE)>*

<tremble = to SHAKE very slightly because you are frightened or upset:>

*Jane's lip began to tremble and I thought she was going to cry.*

| *The dog sat trembling in a corner. (LEA)>.*

5) 震えの要因として、<anxiety, excitement, frailty, frightened, upset>などが挙げられている。

6) 泣きだす前の唇の震えの例が見られる。

7) 動物の例として、犬が挙げられている。

### 3. セット内の他の類義語

この章では、基本語・中核語以外のセット内の類義語を、逐一取り上げてみたい。類義語の特徴に関して情報量の多い辞書の解説を、それぞれ比較してみよう。

#### 3.1. Quakeに関する情報

<quake = (of persons) to SHAKE or TREMBLE from cold, weakness, fear, anger, or the like:>

*He spoke boldly even though his legs were quaking. (RHD)>*

<quake = 1.~(with sth) (of a person) to SHAKE because you are very frightened or nervous [SYN] TREMBLE:>

*Quaking with fear, Polly slowly opened the door. (OALD 6)>*

<**Quake** may be used in place of TREMBLE but it commonly carries a stronger implication of violent SHAKING or of extreme agitation>

<<his name was a terror that made the dead *quake* in their graves—Ouida>>(WNDS)>.

### 【特徴】

- 1) 基本語・中核語のtremble, shakeの2語を併用し, 互いに補足し合う解説が多い。
- 2) Quakeは基本語に置き換えられる語であるが, 震えの程度は, かなり強い。
- 3) <恐怖・寒さ・怒り>などが要因で, 日本語の「ぶるぶる震える, 身震いする」に近い。
- 4) 同じ辞典でも, 旧版と新版には, 要因に関し以下のような違いもある:

<quake = (of people) to SHAKE because of fear, cold, etc:

*She was quaking in her boots at the thought of meeting with her boss. (OALD 5)>.*

### 3.2. Quiverに関する情報

<Quiver suggests a slight, very rapid SHAKING comparable to the vibration of the strings of a musical instrument; it differs from TREMBLE chiefly in being more often applied to things [omitted] or in carrying a less necessary suggestion of fear or passion and a stronger implication of emotional tension

<<the little boy's lips quivered as he tried not to cry>>

<<Seymour sat whimpering and quivering with panic and temper and discomfort —Davenport>>(WNDS)>.

<quiver = to SHAKE slightly; to make a slight movement [SYN] TREMBLE:

*Her lip quivered and then she started to cry.*

◇*The memory of that day made him quiver with anger. (OALD 6)>*

<quiver = tremble or SHAKE with a slight rapid motion: the tree's branches stopped quivering. ■ (of a person, a part of their body, or their voice) tremble with sudden strong emotion:

*Bertha's voice quivered with indignation. (NODE)>*

<quiver = to make a slight trembling movement, esp. from fear or excitement. (LDOCE)>.

### 【特徴】

- 1) Quiverはtrembleと異なり物に用いられることが多いが、人・体の部分にも用いられる。
- 2) この語も基本語のshake, trembleによる解説が多い。
- 3) 「震え」の度合いは微かで速く、唇・声の震えの描写にも用いられる。泣きだす前の唇の震えは、2.4節ではtrembleであった点が異なる。
- 4) その他の要因は、<狼狽・苦痛・憤慨>など多岐にわたる。<感情の高まり>や、<極度の恐怖心>から「おののく」場合などもある。

### 3.3. Shiverに関する情報

<shiver = (of a person or animal) SHAKE slightly and uncontrollably as a result of being cold, frightened, or excited:

*they shivered in the damp foggy cold. (NODE)>*

<shiver = ~(**wih sth**) (of a person) to SHAKE slightly because you are cold, frightened, excited, etc:

*to shiver with cold / tiredness / excitement / pleasure (OALD 6)>*

### 【特徴】

- 1) 人・動物では、<寒さ・恐れ・疲労・喜び>などで、抑制し難い微かな震えを示す。<興奮の高まり>を抑えきれずに、震える場合もある。

<**Shiver** typically suggests the effect of cold [omitted] but it may apply to a similar quivering that results from an emotional or mental cause (as an anticipation, a premonition, a foreboding, or a vague fear) [omitted]

<<he **shivered** with pleasure as he conceived robberies, assaults,—murders if it had to be—Malamud>> or to be a sudden, often seeming, quivering of a thing

<<his heart **shivered**, as a ship **shivers** at the mountainous crash of the waters—Bennett>> (WNDS)>

- 2) <懸念・不吉な予感・虫の知らせ・漠然たる恐怖>などにも起因する。
- 3) 文学作品には、高波に揺れる船に人の心の動揺を喩えた表現もある。

### 3.4. Shudderに関する情報

<shudder = 1.~(with sth)|~(at sth) to SHAKE because you are cold or frightened, or because of a strong feeling:

*Just thinking about the accident makes me shudder.*

◇*Alone in the car, she shuddered with fear. (OALD 6)*>.

#### 【特徴】

1) この語の解説に基本語が用いられてはいるが、前節のshiverと併せてquiverの語が登場する頻度が高まる：

<**Shiver** and **shudder** usually imply a momentary or short lived quivering, especially of the flesh. (WNDS)>

2) 上記の例では、筋肉による震えが表情に現れたと思われる。

<**Shudder** usually suggests the effect of something horrible or revolting; physically it implies a sudden sharp quivering that for the moment affects the entire body or mass

<<the splotched shadow of the heaven tree *shuddered* and pulsed monstrously in scare any wind—Faulkner>>

<<“I am afraid of it,” she answered, *shuddering*—Dickens>>

<<it was one of those illnesses from which we turn away our eyes, *shuddering*—Deland>>

<<the chill of an age-old recognition *shuddered* my spine; a voice was sounding in the dimly lit air—Miller>> (WNDS)>.

3) 突然の激しい震えを示し、<恐怖・寒さ>などで「震えおののく」の日本語に近い。

4) 文学作品には、擬人法に類する例が見られる。

5) また、分詞構文として、動作の随伴感情を示す事例も多い。

6) 他動詞としてspine (背骨) を目的語にとり、寒さの震えに似た「背筋がぞくつとした」に相当する表現もある。

### 3.5. MEDの類義語の扱い方

コーパス分析の成果を取り入れた近刊の辞典MED<sup>(12)</sup>からセット内の類義語の解説を引用してみよう。Shakeは人の震えに関し、欄外の見出しに <1. make quick movements; 3. of voice; 5. cause fear/emotion>とあり、以下の解説が続いている：

<1a. [I] if you shake, your body makes many small quick movements that you cannot control, usually because you are cold, or you are feeling a very strong emotion: **shake with fear/laughter etc.**

*She was literally shaking with fear.*

3. [I] if your voice shakes, it sounds weak, nervous, or emotional:

*His voice shook as he asked her to marry him.*

5. [T] to frighten someone or cause them to feel strong emotions:

*The boy's tragic death shook the entire community.* ◆ He was shaken and upset by the accident. (MED)>.

また、欄外の見出しに<+PHRASES>として、2.3節で引用した<*He was shaking in his shoes* (=very nervous) *at the thought of making a speech in public.* (LDOCE)>の変形も載せた次の成句が出ている：

<**shake in your boots/shoes** to be afraid of something:

---

(12) この辞典の内表紙には、World English Corpusから2億語の用例を得たとして、以下の宣伝文が載っている：

The definitions in the Macmillan English Dictionary have been based on information derived from 200,000,000 words of English which make up the World English Corpus. This consists of the Bloomsbury Corpus of World English with additional material exclusively developed for this Dictionary, including ELT materials and a corpus of common errors made by learners of English.

同辞典のAssociate EditorのGwyneth Fox女史と、類義語に関し語法研究会会員として、筆者は個人的に示唆を受ける機会に恵まれた(2002年12月。マクミラン・ランゲージ・ハウス社主催のJACET語法研究会親睦会)。これに先立つ、1997年8月にはJACET語法研究会の代表としてバーミンガム大学COBUILD研究所を訪れ、データベースの資料を検索した。また、Editor-in-ChiefのMichael Rundell博士からは、2001年3月のThe 15th International Lexicography Course及びJACET英語辞書研究会・第4回ワークショップで「嫌悪感の諸相—動詞hateとその類義語の事例—」と題して研究発表をした際に、有益な示唆を受けることができた。

*The movie was so scary I was shaking in my boots. (MED)>*

この成句は心理的な震えである。3.1節で取り上げた類似の<quake = (of people) to SHAKE because of fear, cold, etc: *She was quaking in her boots at the thought of meeting with her boss. (OALD 5)>*では、基本語以外の動詞が用いられている。

Trembleは欄外の見出しはなく、次の2項が出ている：

<1. if your body or part of your body trembles, it shakes, especially because you are nervous, afraid, or excited:

*Adam's hands began to tremble as he opened the letter. ◆ +with She was trembling with anger. ◆tremble violently / uncontrollably*

*Her knees were trembling violently beneath her skirt.*

1a. if your voice trembles, you cannot talk in a steady calm way, especially because you are nervous, afraid, or excited. (MED)>.

#### 【特徴】

1) 基本語のshakeでは震えの主体に関し、your body, or part of your body, your voice等が比較されている。

2) 震えの要因・随伴感情に関係あるものとして、<寒さ>の他に、<fear / laughter; weak, nervous, or emotional; a very strong emotion; fear / emotion; frighten; strong emotions; upset; afraid>等が見られる。

#### 【特徴】

1) 基本語のtrembleでは震えの主体として、your body, or part of your body, your voiceの他に声・両手・膝の例が見られる。

2) 震えの要因・随伴感情に関係あるものとして、<nervous, afraid, or excited; anger>が挙げられており、「動詞+with+怒り」の定石が見られる。

3) 「基本語+ly副詞」の解説も定石通りである。



その他の類義語に関しては、情報量の多い順に列挙すると、以下の指摘がある：

<shiver<sup>1</sup> ★ if you shiver, your body shakes slightly, for example because you are cold or frightened:

*We stood shivering in the icy wind.* ◆ **shiver with cold/fear/surprise etc.**

*She shivered with fear at the thought of seeing him again. (MED)*

<shudder [I] ★ if you shudder, your body suddenly shakes, for example because you suddenly feel cold or frightened:

*She shuddered slightly at the memory.*

<quiver [I] to shake with short quick movements:

*Her lip quivered and she tried not to cry.*

<quake [I] 1. to feel so afraid that your body shakes slightly. (MED)>.

#### 【特徴】

1) 類義語を一括するが、震えの主体として、body, lip (単数形) の例が見られる。

2) 要因・随伴行動として、<surprise, afraid>が挙げられている。

なお、shiverの名詞形には、bodyの変形とも言える非人称主語や他動詞の目的語の例が見られる：

<shiver<sup>2</sup> a shaking movement that your body makes when you are cold, frightened, or excited: *A sudden shiver ran through her whole body.* ◆ **a shiver of horror/shock/excitement** *I felt a tiny shiver of excitement on hearing the news. (MED)>.*

その他、6.3節で再検討するがアンケートから外した動詞として、声の震えに関して次例が見られた：

<quaver [I] if your voice quavers, it is not steady because you are feeling nervous or afraid. (MED)>

<wobble [I] if your voice wobbles, it goes up and down, usually because you are frightened or not confident, or you are trying not to cry. (MED)>.

なお、わが国で出版されている辞典には、Her voice vibrated with fear. /His

heart vibrated with expectation. / Her voice wavered with emotion. の例が挙げられているが、MEDのvibrate, waverの項には「震える」の意は載っていない。Waverはhesitateの意で比喩的に心の震え・動揺・迷い・躊躇い・逡巡に転義されることであろう。

#### 4. 総合的比較

##### 4.1. 古典的な類義語辞典（その1）

一般的な基本語がshake, trembleであることは前述したが、類義語研究の先覚者Crabbは「前者は一般的な語で、他のセット内の類義語はこの語の震えの言い換えであり、後者は内面からの震えを指し要因として<fear, cold, weakness>を挙げられる」旨を述べている<sup>(13)</sup>。また、これまで引用してきた辞書類で指摘されている各語の特徴を端的にまとめているが、自然界の描写による外的な<揺れ・震え>の要因が、人間の内的な精神構造に喩えられる比喩化の過程が伺える解説も見られる：

<To *shake* arises from external or internal causes; we may be *shaken* by others, or *shake* ourselves from cold: to *agitate* and *toss* arise from some external action, direct or indirect; the body may be *tossed* by various circumstances, and the mind may be *tossed* to and fro by the violent action of the passions. Hence the propriety of using the terms in the moral application. The resolution is *shaken*, as the tree is by the wind; the *mind* is *agitated* like troubled waters; a person is *tossed* to and fro in the ocean of life, as the vessel is *tossed* by the waves. (CRABB)>.

---

(13) To *shake* is a generic term, the rest are but modes of *shaking*: to *tremble* is to *shake* from an inward cause or what appears to be so: in this manner a person *trembles* from fear, from cold, or weakness; and a leaf which is imperceptibly agitated by the air is also said to *tremble*: to *shudder* is to *tremble* violently: to *quiver* and to *quake* are both to *tremble* quickly; but the former denotes rather a vibratory motion, as the point of a spear when thrown against wood: the latter a quick motion of the whole body, as in the case of bodies that have not sufficient consistency in themselves to remain still. (p. 623).

この解説に見られるイタリック体の語や直喩 (simile) によるlikeの語は、転義の過程を如実に物語っている。一般の類義語辞典では、tossの語はセット内の類義語に登場することは稀であるが、「人の心を、激しく動揺させる [かき乱す]」の意でbe tossed by anxietyのように用いられる経緯を伺い知ることができる。体の震えはないが、心の震えはあるのである。文学作品には、この種の比喩的表現が用いられる傾向がある。

#### 4.2. MGSの対比法

前章の総括と次章への繋ぎとして、セット内の全ての類義語に関する全般的な情報を整理してみよう。「震え」の主体と強度の差に関し、MGSはshake, quake, quiver, shiver, shudder, trembleの6語を以下のように解説している：

<These words refer to agitated movements that are quick, slight, or intense and are often involuntary expressions of strain or discomfort. (MGS)>.

##### 【特徴】

1) こうした震え・動揺は、速くて微かであるが、無意識・不本意の緊張感・不快感に起因する<sup>(14)</sup>。

<SHAKE is the most general and is also unique in this group because it can designate something that is done to as well as by a person or object: *shaking* his fist in rage; branches *shaking* in the wind. (MGS)>.

2) Shakeは最も一般的な語で、人・物に関して用いられ、体の部分について、「激怒でこぶしを震わせる」のように用いる。

<**Quiver** is more specific in suggesting a rapid but almost imperceptible vibration: ropes that *quivered* tautly under this hands; a network of ripples that *quivered* momentarily across the surface of the still pool; her whole body *quivering* with delight. (MGS)>

3) Quiverは「震え」が速くて微かなために感知できない場合などに用いる。体

---

(14) 不本意の震えが筋肉に現れる場合には、生理学で言うinvoluntary muscles (不随意筋)の術語が示唆的である。

の部分の震えが物の揺れに移行する描写も見られる。震えたのはロープであるが、実際は人間の手である。

<Quake suggests specifically a more violent upheaval: the ground *quaking* beneath them as the artillery barrage began; his heart *quaking with panic*. (MGS)>

4) 人に関しては、「パニックで震えた彼女の心」のように体の部分と識別すべき事例もある。

<The remaining words apply best to the involuntary SHAKING of a person or animal; when they are used of natural objects an anthropomorphic overtone persists. (MGS)>

5) 上記の3語以外は、人間・動物の無意識な震えを示し、自然界の描写に際しては、擬人観的 (anthropomorphic) な色彩の強い意味を含む。

<TREMBLE is like *quiver* in suggesting a quick but slight movement; to this there are added implications uneasy or nervous discomposure: hands that *trembled with eagerness* as she opened the letter; leaves *trembling* in the faint breeze. (MGS)>.

6) Trembleはquiverに似て、速いが微かな動きを示し、不安・神経過敏などに起因する心の動揺を表す。手紙を開封した際に手が震えた例は2.4節で見たが、with eagerness の例は小論では初登場である。なお、開封した時の手の震えにshakeを用いた例は7.1節で取り上げる。

<SHIVER is like *tremble* except for specifically suggesting coldness or fear as the cause of the slight, rapid movement: beginning to *shiver* as the intense cold pervaded the room; *shivering inwardly at the thought of* having to explain to her mother why she had stayed out so late. (MGS)>.

7) Shiverはtrembleに似ているが、主として寒さ・恐れによる震えである。体の部分とは異なる「心の震え」を示すshudder inwardlyの事例がここにも見られる。

<Shudder suggests a more intense SHAKING than either TREMBLE or *shiver*, suggesting horror, revulsion, or extreme pleasure as possible causes for the involuntary movement: *shuddering at the touch of* his leathery hand. Although *shudder* may be as intense as *quake*, it may suggest movement less noticeable to an onlooker: *shuddering* breathlessly in the doorway until his pursuer had raced past.

(MGS)>.

8) Shudderもtrembleに似てはいるが、tremble, shiverより激しい震えを指す。<恐怖・嫌悪>などの他に、非常なく喜び>が要因となることもある。Shudderはquakeと同様に激しい震えであるが、周囲の人が感知できない。

9) 震えの動機が、前項のat the thought ofと類似のat the touch ofの句で表されている。

#### 4.3. LLAの対比法

前節のアメリカ英語の立場をとるMGSと、イギリス英語の立場をとるLLAとを比較してみよう。すでに述べた通り、人間の震えに限定したので、物 (something) に関する第1項と第2項は除外する。自動詞shakeの第3項には、bodyの震えに関して、以下の解説がある：

<SHAKE = 3. ways of saying that someone's body shakes, for example because they are nervous, frightened, or tired (LLA)>として、“shake, shiver, tremble, quiver, shudder, twitch”の6語を挙げている。この辞書には、quakeは含まれていない。その他、手足などの体の部分については、7章で述べてみたい。

Trembleは、shakeの語を用いて、次のように解説されている：

<tremble = to SHAKE slightly and uncontrollably, especially because you are very nervous, excited, angry, or upset:

*Mother's lips were trembling. She was obviously going to start crying again.*

| *I was so nervous during the wedding ceremony that my hands were trembling when I put the ring on her finger.*

| *Lydia was trembling with excitement at the thought of meeting her heartthrob Tom Cruise. (LLA)>.*

#### 【特徴】

1) 基本語による解説であり、震えは微かで、抑制できないことによる。要因として、<気の転倒・気の乱れ>が挙げられている。

2) 泣きだす前の唇の震えは2.4節の例と同工異曲であるが、今回は複数形になっている。婚約指輪をはめたときの手の震え・恋人に逢う前の<興奮>による震えは、

これまでに登場していない。

<quiver = to SHAKE slightly that is almost impossible to see, especially because you are very excited or nervous:

*John's hands were quivering as he put down his papers and started his speech.*

(LLA)>

3) 演説の寸前の両手の震えの例も珍しい。

<shiver = to SHAKE with small uncontrollable movements, especially because you are very cold or because you have had a shock:

*Ellen shivered in horror, "To think that I almost married a murderer!" (LLA)>*

4) 寒さの他にショックによる要因を挙げている。

5) 前置詞がwithではなく、inを用いたin horrorの例が見られる。

<shudder = to SHAKE uncontrollably for a moment, especially because you are very upset by something unpleasant:

*I shuddered to think of my son all alone in New York. (LLA)>*

6) この例では、<不快感 (unpleasant) >が随伴する心の動揺の要因となっている。5章で再考するが、震えの要因として見逃せない要因の一つである。

#### 4.4. 古典的な類義語辞典 (その2)

Günther (1904, 1928) の *English Synonyms and Homonyms* は初版が1904年、第5版の改訂版が1928年に出版されたもので、Grabbと並んで、まさに古典的な存在である。類義語の第654グループには、見出し語として次のセットが示されている (p. 297) : Tremble, Shake, Quake, Shiver, Quiver, Shudder.

以下、次の各語の解説が続いているが、これまで見てきた辞書類・類義語に関する書の走りとも伺える記述が見られる:

<**Tremble** — the most usual and general word — to be affected with slight, quick, and continued vibratory movements.

**Shake** — to move to and fro or up and down in short, quick movements; to tremble from agitation or from concussion.

**Quake** — formal and rarely used now-a-days — to be shaken with more or less

violent convulsions; to tremble from cold, weakness, or fear, or from want of solidity or firmness (a quaking bog, morass).

**Shiver** — to tremble with cold or a sensation like that of cold.

**Quiver** denotes a slight, tremulous motion and is said esp. of persons under the influence of some emotion and of sounds and rays of light.

**Shudder** —to tremble with a sudden convulsive motion as from horror, fright, or repugnance.>

この辞典には、文学作品の引用例が見られ、2章の基本語と3章の他の類義語で *WNDS* から引用したものと比較すると示唆的である（文頭の数字は筆者による）：

< i ) He looked at her, trembling with anger. —MRS. WARD.

ii) She spoke in a trembling voice. —J. M. BARRIE.

iii) He wondered why she kept shaking her head. —MRS. BURNET.

iv) These attacks shook the confidence of the soldiers in their chiefs. —C. FIRTH.

v) An icy wind moaned through the trees, shaking the pines as though they quaked with mortal fear. —S. BARING-GOULD.

vi) The ground seemed to quake under her feet. —A. BENNETT.

vii) The Chevalier shivered again as if with cold. —R. BUCHANAN.

viii) Is it the night air that makes you shiver? —J.M. BARRIE.

ix) Katherine's lips quivered too much for speech. —L. MALET.

x) As he drew her to him a slight quiver went through her. —J. M. BARRIE.

xi) Yet the name of Sulla is one at which we almost instinctively shudder. —E. A. FREEMAN.

xii) The first sensation of fear, or the imagination of something dreadful, commonly excites a shudder. —C. DARWIN.>

例 iii) の他動詞は「振る」の意で他と比べて異色である。iv) にも他動詞の例が見られ、「揺るがせる？」に相当しよう。iv) は自然界の描写であるが、v) は [-Animate] から [+Animate] に移行する比喩化のプロセスが伺える。viii) は「前置詞+要因」の型によらず、使役動詞を用いている。ix) の複数扱いのlipsの

震えは<緊張感>が伴うものであろう。では主語・目的語として名詞形が用いられている。

#### 4.5. わが国の類義語辞典の研究史と二重言語常用者 (bilingualist) の見解

わが国の類義語辞典の走りとも言える井上 (1965) の解説の内、基本語のみを抜粋してみると、<Tremble (こわくて) 震える, おののく, 最も普通で (usual), 一般的の (general) 語。微かな (slight), 速い (quickly), 継続的の (continued) 震動にいう (Günther) <sup>(15)</sup>。殊に人体 (human body) が恐怖などのために震えるにいう (WS) (ACD)。内心から震えおののく意味であるが、又風などがそよぐ意にもなる。[怒り, 恐れなどのために・猛獣, 強盗などに出会って・喫煙過度のために・人・家屋・大地・樹葉・膝・声等が]><Shake震える, 揺れる, 振る。一般的に広く用いられる (Crabb)。あちこちに (to and fro), 又上下に (up and down) 短く, 速く振る意 (Günther)。trembleの代わりに屢々用いられるが, 普通激しい振動 (violent shaking) にいう (WS)。[広く用いられるが概して大きく震えるに言う。[病のために全身が・家・大地が地震のために・乗客が車の動揺のために・樹木が強風のために・樹皮, テーブル, 手, ステッキ, 鉄拳等を] >である。

その他の類義語に関しては、<Quake震える, 揺れる。形式ばった (formal) 語で今では稀にしか用いない。多少はげしくけいれん的に震えること (Günther), 古風な語で動詞としてはあまり用いないが, 名詞としてearthquake「地震」, Quaker「クエーカー宗徒」の語では普通に用いられる。[空気・恐怖・怒りのために]><Shiver震える, 身震いする。寒さ (cold) 又は悪寒のするような感じで trembleすること (Günther) (CD) [寒さ, 恐怖で身が・風で木の葉が等・星が大空に・楽器の弦が等]><Quiver (ぶるぶる) 震える, わなわなく, 震わす, 微かな (slight), ぶるぶる震える (tremulous) 運動にいう (Günther) (CD) quake,

(15) 同辞典の p. 878より引用。Günther, WS, ACD, は, それぞれ J. H. A. Günther, *English Synonyms and Homonyms* (The Hague); *Webster's Dictionary of Synonyms* (Springfield, U. S. A.); *The American College Dictionary* (New York)の略称である。



quiverは共に急速に (quickly) trembleする意味, 但し前者は地震などのように物の全体が急速に震えること, 後者は槍を樹木に打ちつけたとき, その穂先に感ずるような震動にいう《Crabb》 [人・手足・唇・木の葉・光線・音響・湖面等が] ><Shudder身震いする, ぞっとする。(恐怖などでぞくぞく) 震える, 恐怖, 嫌悪などのために突然激しくけいれん的に震えること《Günther》。激しく (violently) trembleすること《Crabb》。大体shiverと同じに用いる。[恐怖・嫌悪・寒気等のために] >と解説している。

時代が経過して, 英語母語話者の見解も反映されていいると思われる松本 (1992) の「ふるえる」の項には, 以下の解説がある:

<shake: 突然, 急速に振動すること。He was shaking with cold.//The wet dog shook himself.>

<tremble: 恐怖, 寒さ, 衰弱, 興奮などで, 体の筋肉が不随意的にかつ間欠的に振動することで, 人間に使うことが多い。The children trembled with fear when they saw the policeman.>

<shiver: trembleと同義であるが, shiverは瞬間的なふるえ。She was shivering in her thin clothing on a frosty day.>

<shudder: 恐怖や憎悪感でふるえることであるが, trembleやshiverの場合よりも, 原因となる刺激がもっと強烈であり, その根が深い。She shuddered at the sight of the Auschwitz concentration camp.>

<quiver: 緊張などの刺激で微かなふるえを見せること。His fingers quivered uncontrollably.>

<quake: 極度の恐怖のあまりふるえること。He just stood there quaking with fear.//He quaked with fright.>

以上の引用例を一瞥して, 解説・例文は大同小異と言えよう。

## 5. 「震え」の情動的要因

これまで見てきた通り, 波線部で示した震えの要因は, 接続詞becauseに導かれる解説文の形容詞と, 前置詞with, fromなどに続く名詞とに大別される。要因となる刺激は, 精神的な恐怖・不安・心配, 怒り・激怒, 興奮・心の動揺, 弱さ・意志

薄弱, 憎悪・嫌悪・反感などの情動と, 肉体的な寒さ等であった。この章では, セット内の類義語と多様な情動的要因との関係に探りを入れたい。心理学での「情動 (emotion)」の定義は, 1章でも触れたが, 「怒り・恐れ・喜び・悲しみなどのように, 比較的急速に引き起された一時的で急激な感情の動き。身体的・生理的变化を伴う」であり, 「情緒」と同義に解されている<sup>(16)</sup>。

また, “EMOTIONAL STATE”に関する以下の解説も, 「恐怖・激怒及び他の情動」に言及している<sup>(17)</sup> :

The condition of the organism during affectively toned experience, whether mild or intense, A condition underlying such experiences and actions as occur in fear, rage, and the other so-called emotions, In its most obvious manifestations, it is an accute condition characterized by the disruption of everyday experiences and activities.

この章では, セット内の類義語に関する震えの情動的要因を比較し検討してみよう。

### 5.1. NODEからの情報

NODEの解説は, 2つの基本語・中核語を併用したもので, 端的で示唆に富む。情動に関する部分を抽出してみよう (前述した通り, 下線部は程度または様態を表す副詞を, 波線部は「震え」の要因ないしは随伴する感情を, イタリック体はセット内の類義語を, それぞれ示す) :

<SHAKE = TREMBLE uncontrollably from a strong emotion such as fear or anger / TREMBLE = SHAKE involuntarily, typically as a result of anxiety, excitement, or frailty / quake = SHAKE or shudder with fear / quiver = TREMBLE with sudden strong emotion / shiver = SHAKE slightly and uncontrollably as a result of being cold, frightened, or excited / shudder = TREMBLE convulsively,

(16) 『広辞苑』岩波書店, 第5版 (1998) による。また, 同辞典の「情動」の項によると, 「(1) 折にふれて起きるさまざまの感情。情思。また, そのような感情を誘い起す気分・雰囲気。(2) [心] 情動に同じ」である。

(17) Heidenreich, C. A. (1970). *A Dictionary of General Psychology: Basic Terminology and Key Concepts*, Iowa: Kendall/Hunt Publishing Company. pp. 45-6. 下線は筆者。

typically as a result of fear or repugnance. (NODE)>.

但し、震えの要因は辞書・文献により、さまざまである。例えば、次節で触れるWYNにはNODEに含まれていない語として、weakness, disgustも挙げられている。

## 5.2. 震えの要因と程度に関する表

震えの要因と程度に関する情報を作表して、類義語の違いを明示する手法がある。例えば、WYNはSHAKEを基本語として、“tremble, quake, quiver, shiver, shudder”の計6語を挙げ、「震え方・揺れ方」を、‘move from side to side or up and down’とし、次の差異に該当する語を挙げている：

<‘with quick, short movement’ (shake, tremble, quake, quiver, shiver, shudder) / rather violently (quake) / slightly (quiver, shiver) / momentarily (shudder)>

また、often because ofとして以下の要因に対応する動詞を特定している：

<fear (shake, tremble, quake, quiver, shiver, shudder), excitement (tremble, quiver), weakness (tremble), anger (quiver), cold (shiver), disgust (shudder) (WYN) (p. 25)>.

別の表には、「前置詞with+情動の要因」の形をとる複数の動詞も挙げられている (quiver with excitementの結び付きの欄に (+) とカッコが付されている)：

<with cold (shiver), with fear (tremble, quake), with fright (shake, quake, quiver), with anger (shake, tremble), with rage (quiver), with horror (shudder), with emotion (shake, tremble, quiver), with excitement (shake, quiver), with laughter (shake, quake), with disgust (shudder) (WYN)>.

わが国の学習英和辞典にも、次の但し書きが添えられた表による解説が見られる：

	cold	fear	fright	anger	rage	horror	emotion	excitement	laughter	disgust
shake			+	+			+	+	+	
tremble		+		+			+			
quake		+	+						+	
quiver			+		+		+	(+)		
shiver	+									
shudder						+				+

< 【語法】 [「震える」の意の動詞] 必ずしも普遍的なものではないが、with句で示される震えの主な原因と、震え方の強弱はだいたい次の表ようになる<sup>(18)</sup>。>

こうした例に倣い、これまで引用してきた震えの要因を出典も明記して作表してみたが、膨大な数に上り限られた紙面に収める試みは徒勞に帰した。

### 5.3. 要因の多様性

これまで取上げてきた波線を施した要因を示す解説を抽出し、震えの要因を整理すると、以下のことが指摘できる：

1) 辞書・文献には、WYNの表以外の震えの要因が示されており、+記号の結び付きは、より多様である。要因の筆頭に挙げられる語は、肉体的なく寒さ>と精神的なく恐れ>であり、cold, fearの2語が頻繁に登場する。

2) 記述方式は、形容詞を用いて、“because you are very cold; as a result of being cold” とする場合と、名詞fearを用いて、“with fear; from fear; ... caused by fear; when one is agitated or unmannerd (as by fear)” のように異なる前置詞を用いる場合とがある。

3) また、「前置詞+名詞」に成句at the sight ofを続けて、視覚を通しての外界の刺激の要因を解説した事例もある（例：He quivered with emotion at the sight of

(18) 同一の表を『ジーニアス英和辞典』（大修館書店，1995）のtrembleの項と『アクティブ ジーニアス英和辞典』（大修館書店，1999）のshake項の語法欄から引用したものである。この掲載箇所の違いから推測しても、2.2節で述べた中核語・基本語の設定の困難さが察せられる。なお、shakeの欄の「老齡+，強弱」は、前記2辞典の内『アクティブ ジーニアス英和辞典』にのみに初めて記載された。

	恐怖	興奮	怒り	寒さ	嫌悪	老齡	強弱
shake	+	+	+	+		+	中
tremble	+	+	+				中
quake	+			+			強
quiver	+	+	+				弱
shudder	+				+		中
shiver	+			+			弱

なお、『ジーニアス英和辞典』の第3版（2003）には、この表は記載されていない。

his long-lost son. (WYN, p. 26). 震えの要因となる刺激が、聴覚によるものとして、次の例も見られる<sup>(19)</sup>：

<John was trembling at the strange sound [from the cold, with anger]. ジョンは変な物音を聞いて [寒さで、怒りで] 震えていた。>

4) 要因に応じて適切な動詞が選択されようから、ある程度は動詞を特定できよう。因みに、和英辞典には、次のような対訳例が見られる<sup>(20)</sup>：

<激しく震える：shake [quiver, thrill] with emotion [excitement];

寒くて震える：shiver with [from] (the) cold; quiver from (the) cold;

疲労 [怒り] で震える：tremble with fatigue [anger];

こわがって震える：tremble for fear; shudder at ((the sight)) ; shiver [tremble] with fear [fright];

興奮 [悦び, 怒り] で震えて：in a tremor of excitement [delight, anger].>

上記の用例には、恐怖・歓喜などで「ぞっとする、ぞくぞくする」の意の動詞で、このセット内の類義語には一般に含まれていないthrillやat the sight ofのような句の亜種とも言える例も見られる。限られた紙面に盛り込む意図で編まれたコンパクトな英和和英辞典の和英の「震える」の項には、歯が「震える」に関して、chatterの語を対応させている事例もある<sup>(21)</sup>。

5) 要因の解説が形容詞による場合は、嫌悪感・不快感が要因の動機である語が多い。多様な要因の処理法として、ある特定の辞典を中心に考えるのが能率的であろう。以下は、これまでの情報を布石として見出し語を定め、< >内は情動的要因が詳しく載っているCOBUILDから局部的に引用した各語の解説である（見出し語はアルファベット順に列挙するが、品詞は必ずしも形容詞とは併行しない。）：

**[afraid]** <frightened ... unpleasant>

**[angry]** <strong dislike or impatience>

**[anxious]** <nervous or worried>

(19) 『ウィズダム英和辞典』（三省堂、2003）

(20) 『新和英大辞典』（研究社、1990）の「震える」の項より順不同に抜粋。

(21) 『リトル英和和英辞典』研究社、1991）

**【frightened】** <afraid, anxious, or nervous>

**【horrible】** <do not like>

**【nervous】** <frightened or worried>

**【revolting】** <horrible and disgusting>

**【unpleasant】** <upset or uncomfortable>.

6) 当然のことではあるが、異質な震えとも言える<喜び (delight, pleasure) >, <笑い (laughter) >など快感が伴うプラス感情の語は、名詞・形容詞ともに比較的少ない:

**【admiration】** <great liking and respect>

**【anticipation】** <pleasant or exciting>

**【eagerness】** <interesting or enjoyable>

**【excited】** <happy ... pleasant>.

7) 快感・不快感の領域にまたがる語も含まれている:

**【emotion】** <happiness, love, fear, anger, or hatred>

この語は、本章の冒頭で触れた心理学の「情動 (emotion)」の定義が、<怒り・恐れ・喜び・悲しみ>などのように、比較的急速に引き起された一時的で急激な感情の動きであり、身体的・生理的変化を伴う。情動は「情緒」と同義に解されていることと比較したい。また、< >内の名詞と喜怒哀楽の情とも比較したい。

8) 形容詞形を名詞形にした、<恐れ・恐怖, 怒り・憤慨, 憎悪・嫌悪>などのマイナス感情の語には、それぞれ程度の差が見られる:

**【anger】** <unfair, cruel, or unacceptable>

**【disgust】** <very strong dislike or disapproval>

**【fear】** <unpleasant ... frightened ... undesirable>

**【indignation】** <unjust or unfair>

**【rage】** <powerful or unpleasant>.

要因の多様性と名詞形の類義語の選択に関して寸言したい。セット内の動詞は、5.2節の表に示されたfear, fright, terror>等の語の恐怖の強さにも影響されよう。辞書の解説では、一般に<dread, fright, terror, horror>の方が<fear>より強い恐怖を示すとされている。RHDのfearの項のSyn.には、<apprehension, consternation,

dismay, terror, fright, panic, horror, trepidation>の語が見られ、これに続いて、<FEAR, ALARM, DREAD all imply a painful emotion experienced when one is confronted by threatening danger or evil.>の解説がある。

9) 時間的には、震えの原因と結果、刺激と反応などの対比が認められよう。前者が外的なものであるのに対し、後者は内的なものであると言える。ただし、情的要因と随伴感情の対比は、より複雑で微妙な心理が作用すると思われる。次例における動詞screamを「随伴行動」と仮称してみよう：

*On seeing the blood-stained knife, she shuddered and screamed. (WYN, p. 26).*

### 5.3.1 多様性の具体例

これまで見てきた辞典類の解説や表から得た情報を総合すると、このセット内の類義語は、動詞を中心にして比較すると、人・体の部分・声などの主語に続く用例が多種多様で、動作主の心理状態の描出は辞書によりさまざまである。この節では、セット内の類義語の動詞に続く、解説または具体例を挙げて比較してみよう。

[ ] 内に「with+情動」の例を引用し、その後のカッコは主語を示す。#印はwith付きの用例が記載されていない場合である。情動的要因となる語を見出し語としてアルファベット順に配列する。複数の情動的要因がある場合は、類似の要因と比較するため当該項の語に波線を付す。代表的な例を優先し、重複しているものは、矢印(←)で示す。例えば、冒頭の【afraid】に関しては、2.3節 OALD 6のshake第6項の“OF BODY”の見出しに続く以下の解説は、< >内のように圧縮された形で示してある。

#### 【afraid】

<SHAKE: ... cold or afraid. [with fear] (person) / (hands) #] (OALD 6)>

また、これに続く第7項の“OF VOICE”に関する事例では、後出の【nervous】の項に示した形となる。見出し語に関する特徴の観察として、\*印次を付して次のような事柄を指摘する場合もある：

\* 1) 2.3節で触れた第6項の“OF BODY”に属する例であるが、体の語は直接用いられていない。

**【anger】**

<SHAKE: with laughter / anger / fear. [with emotion (voice)] (LDOCE)>

<quake: from cold, weakness, fear, anger, or the like: [legs#] (RHD)>

\* 2) <寒さ・恐れ・怒り>などと併せて、異質な<笑い>同じレベルで扱われている。声が感動して震える例も見られる。

<quiver: [lip# / with anger<sup>(22)</sup>] (OALD 6)>

**【angry】**

<SHAKE: usually because you are nervous, upset or angry. (OALD 6)>

\* 3) 2.3節で触れた第7項の“OF VOICE”に属する例であるがwith付きの用例は記載されていない。

<TREMBLE: especially because you are very nervous, excited, angry, or upset: [with excitement (person) / (lips#) / hands#] (LLA)>

**【anticipation】**

<Shiver: results from an emotional or mental cause (as an anticipation, a premonition, a foreboding, or a vague fear) [with pleasure (person) / (heart#) (WNDS)>

**【anxiety】**

<TREMBLE: typically as a result of anxiety, excitement, or frailty: [with excitement (person)] (NODE)>

**【cold】**

<SHAKE: because you are cold or afraid. [with fear] (person) / (hands)#] (OALD 6)>

\* 4) 肉体的な刺激の<寒さ>が、冒頭の精神的な<afraid>と併用されている。

<SHAKE: with emotion, cold, etc. (RHD)>

<TREMBLE: caused by fear, cold, weakness, great emotion, etc. [with dismay (heart)] (RHD)>

\* 5) 基本語を用い、<emotion>の語と<寒さ>を同一のレベルで扱っている。

<TREMBLE: especially when one is agitated or unmannered (as by fear, passion,

(22) 用例は、3.2節で述べた同辞典の引用を参照。



cold, or fatigue) (*WNDS*)>

\* 6) <Passion>とも同じレベルで扱っている。

<shiver: because you are cold, frightened, excited, etc: with cold/tiredness/excitement/pleasure (*OALD 6*)>

\* 7) 前行の<fatigue>の類義語<tiredness>が見られる。

<shiver: as a result of being cold, frightened, or excited: (*NODE*)>

\* 8) 前行の<excitement>の派生語<excited>が見られる。

<shudder: because you are cold or frightened, or because of a strong feeling: [with fear (person)] (*OALD 6*)>

\* 9) Shiverとshudderは重なる部分が多いことを、同一の辞書が示している。

<shiver: especially because you are very cold or because you have had a shock: in horror (person#) (*LLA*)>

\* 10) <Frightened>と併せて、<shock, horror>など精神的な<驚き・衝撃・恐怖>にも用いられる。

**[discomfort]**

<quiver: with panic and temper and discomfort [lips#] (*WNDS*)>

**[discomposure]**

<TREMBLE: there are added implications uneasy or nervous discomposure: [with eagerness (hands)] (*MGS*)>

**[dismay]**

← **[cold]** <TREMBLE (*RHD*)>

**[eagerness]**

<TREMBLE: there are added implications uneasy or nervous discomposure: [with eagerness (hands)] (*MGS*)>

**[emotion]**

← **[cold]** <SHAKE (*RHD*)> ← **[cold]** <TREMBLE (*RHD*)> ← **[anger]**

<SHAKE (*LDOCE*)>

**[excited]**

← **[angry]** <TREMBLE: especially because you are very nervous, excited,

angry, or upset: [with excitement (person) / (lips#) / hands#] (LLA)>

<TREMBLE: especially because you are very nervous, excited, frightened, etc: [with fear (legs) / with excitement (voice)] (OALD 6)>

<shiver: as a result of being cold, frightened, or excited: (NODE)>

<shiver: because you are cold, frightened, excited, etc: with cold / tiredness / excitement / pleasure (OALD 6)> ← [angry] <TREMBLE (LLA)>

<quiver: especially because you are very excited or nervous: [hands#] (LLA)>

### [excitement]

<TREMBLE: as from fear, excitement, weakness, or cold (RHD)>.

<TREMBLE: especially because you are very nervous, excited, frightened, etc: [with fear (legs) / with excitement (voice)] (OALD 6)>

<TREMBLE: typically as a result of anxiety, excitement, or frailty: [with excitement (person)] (NODE)>

<quiver: esp. from fear or excitement (LDOCE)>

<shiver: because you are cold, frightened, excited, etc: with cold / tiredness / excitement / pleasure (OALD 6)> ← [angry] <TREMBLE (LLA)> ← [anxiety]

<TREMBLE (NODE)>

### [fatigue]

← [cold] <TREMBLE (WNDS)>

### [fear]

<SHAKE: [with fear (person) [hands, legs #] (LLA)>

<TREMBLE: especially because you are very nervous, excited, frightened, etc: [with fear (legs) / with excitement (voice)] (OALD 6)>

<TREMBLE: usually from fear, excitement, or weakness: with rage (LDOCE)>

<TREMBLE: as from fear, excitement, weakness, or cold (RHD)>

\* 11) 基本語では、<恐れ>による震えは、<怒り・苛立ち・体力的精神的な弱さ・寒さ>などの他に、プラス情動の<興奮>と同じレベルでも扱われる。手足・声にも用いられる。

\* 12) <Fear>がshake, tremble, quake, quiver, shiver, shudderの6語のすべ

てに結び付くことはWYN (p.25) でも指摘されている。

<quake: from cold, weakness, fear, anger, or the like: [legs#] (RHD)>

\*13) その他, 小論で取上げるセット内の6語すべてに用いられる。quakeが足の震えに用いられる例が見られる。

<quake: because you are very frightened or nervous. [with fear (person) (OALD 6)>

<quiver: esp. from fear or excitement. (LDOCE)>

<shiver: results from an emotional or mental cause (as an anticipation, a premonition, a foreboding, or a vague fear) [with pleasure (person) / (heart#) (WNDS)>

<shiver: specifically suggesting coldness or fear as the cause of the slight, rapid movement (MGS)>

<shudder: because you are cold or frightened, or because of a strong feeling: [with fear (person)](OALD 6)> ← [afraid] <SHAKE (OALD 6)> ← [anger] <quake (RHD)>← [anger] <SHAKE (LDOCE)> ← [anticipation] <Shiver: (WNDS)> ← [cold] <TREMBLE (RHD)>← [cold] <TREMBLE (WNDS)>

【foreboding】

← [anticipation]

【frailty】

← [anxiety] <TREMBLE (NODE)>

【frightened】

<TREMBLE: especially because you are very nervous, excited, frightened, etc: [with fear (legs), with excitement (voice)] (OALD 6)>

<TREMBLE: because you are frightened or upset: [(lip)# (LEA)>

<quake: because you are very frightened or nervous. [with fear (person) (OALD 6)>

<shiver: as a result of being cold, frightened, or excited (NODE)>

<shiver: because you are cold, frightened, excited, etc: *with cold / tiredness/excitement/pleasure* (OALD 6)>

<shudder: because you are cold or frightened, or because of a strong feeling: [*with*

*fear* (person) (OALD 6)>

**[horrible]**

<**Shudder**: usually suggests the effect of something horrible or revolting;  
(WNDS)>

**[horror]**

<shiver: especially because you are very cold or because you have had a shock:

in horror (person#) (LLA)>

**[indignation]**

<quiver: [with indignation (voice)] (NODE)>

**[laughter]**

← **[anger]** <SHAKE: (LDOCE)> ← **[fear]** <SHAKE (WNDS)>

**[nervous]**

← **[angry]** <SHAKE: (OALD 6)> ← **[angry]** <TREMBLE (LLA)>

<TREMBLE: especially because you are very nervous, excited, frightened, etc: [with fear (legs), with excitement (voice)] (OALD 6)>

<quake: because you are very frightened or nervous. [with fear (person) (OALD 6)>

<quiver: especially because you are very excited or nervous: [hands#]] (LLA)>

**[panic]**

<Quiver: with panic and temper and discomfort [lips, no] (WNDS)>

<Quake:[with panic (heart)] (MGS)>

**[passion]**

← **[cold]** <TREMBLE (WNDS)>

**[pleasure]**

<shiver: because you are cold, frightened, excited, etc: *with cold/tiredness/excitement/*pleasure (OALD 6)>

<**Shiver**: results from an emotional or mental cause (as an anticipation, a premonition, a foreboding, or a vague fear) [with pleasure (person) [heart#] (WNDS)>

<Shudder: suggesting horror, revulsion, or extreme pleasure as possible causes for the involuntary movement: (MGS)>

【premonition】

← 【anticipation】 <Shiver (WNDS)>

【rage】

<TREMBLE: usually from fear, excitement, or weakness: with rage (LDOCE)>

【revolting】

<Shudder: usually suggests the effect of something horrible or revolting: (WNDS)>

【shock】

← 【cold】 <shiver (LLA)>

【temper】

<Quiver: with panic and temper and discomfort [lips, no] (WNDS)>

【tiredness】

\*14) この語は、<excitement, pleasure>などのプラス情動の語と同様に用いられる。← 【cold】 <shiver (OALD 6)>

【unpleasant】

<shudder: especially because you are very upset by something unpleasant: (LLA)>

【upset】

← 【angry】 <SHAKE (OALD 6)>

← 【frightened】 <TREMBLE (LEA)>

← 【angry】 <TREMBLE (LLA)>

<shudder: especially because you are very upset by something unpleasant (LLA)>

【weakness】

<TREMBLE: usually from fear, excitement, or weakness: with rage (LDOCE)>

<quake: from cold, weakness, fear, anger, or the like: [legs#] (RHD)>

← 【cold】 <TREMBLE (RHD)>.

\*15) 体力的・精神的な<弱さ>は、これまで述べてきた<寒さ・恐れ・怒り>

などの他に、プラス情動の<興奮>と同じレベルでも扱われる。

以上でアルファベット順の列挙を終えたが、ここに引用した【 】内の見出し語と、解説に用いられている要因に関係のある語との波線の付し方には統一性を欠く部分もある。見出し語と< >内のキーワードとは相互作用し、複雑に絡み合う。ここで取り上げた中には、【surprise】の項は含まれていないが、近刊のMEDには、<寒さ・恐れ>に続けて<驚き>の要因に触れている以下の例も見られる：

<◆shiver with cold/fear/surprise etc, *She shivered with fear at the thought of seeing him again. (MED)*>.

次章では、震えるに類する6種の動詞と「前置詞+名詞の要因」の形をとる19項目の要因の結合の可能性を問う、英語母語話者を対象としたアンケートを試みてみよう。

## 6. アンケート調査

### 6.1. アンケート作成の手順

大学英語教育学会 (The Japan Association of College English Teachers) ・ 語法研究会 (Special Interest Group: English Usage) では、母語話者を対象としたアンケート調査を実施し、10人のインフォーマントから参考意見を聴取した。調査内容は、<前置詞+情動に関する名詞>型の句の形をとる、震えの要因に応じて、セット内の動詞がどのように選択されるかである。アンケート作成に際し《In the context: I ~ ~.》と但し書きを付し、さまざまな要因を設定した。A表の作成は、5.2節の3種の表から得た情報を参考としている。アンケートの作成に関しては、次の点に留意した：

1) 回答者として英語圏のさまざまな地域からのインフォーマントを選び、集計結果を算出しやすくするため10名とした。

2) 特定の動詞と句との連結の可能性を、○=correct, ?=doubtful, ×=incorrectの記号により明記してもらった。

3) 動詞と連結する句については、前置詞+withを14例、fromを4例、inを2

例とし、計19例を多様な要因から選択した。

アンケート回答協力者の氏名・国籍・性別・年齢・所属は次の通りである（敬称略，回答順。末尾の文字はイニシャル）：

1. Warren Elliott: American, male, 50's. (千葉商科大学) (WE)
2. Elliot Taback: American, male, 50's. (創価女子短期大学) (ET)
3. Barbara Wells: American, female, 40's. (創価女子短期大学) (BW)
4. Richard Curé: American, male, 50's. (上智大学) (RC)
5. Michael James Farquharson: Canadian, male, 30's. (千葉商科大学) (MJF)
6. Andrew Porter: British, male, 30's. (工学院大学) (AP)
7. Roger McCormick: British, male, 30's. (創価女子短期大学) (RM)
8. Lesley Ann Taylor: British, female, 40's. (駒沢大学) (LAT)
9. Kieran Mundy: Australian, male, 40's. (常磐大学) (KM)
10. Anne Murray Conduit: Australian, female, 50's. (上智大学) (AMC)

インフォーマントに対しては次のような文面で回答を依頼した：

Would you kindly take the trouble to answer the questionnaire? Please fill in these tables following your intuition, using the directions below:

- 1) Mark ○ when usage is correct.
- 2) Mark ? when usage is doubtful.
- 3) Mark × when usage is incorrect.
- 4) Mark # when you would require some clarification.

If you have any questions or comments, please write them on the reverse side.

## 6.2. アンケートの集計結果

【A表】は横軸の動詞と縦軸の「前置詞＋名詞形」の「震え」の要因となる情動との連結の容認度を○?×で示してある。回答符号は、さきに挙げたインフォーマントの掲載順に従って、横並びに列挙してある。読み方は次の通りである：

SHAKE (震える) に類する動詞：【A表】

	SHAKE	TREMBLE	QUAKE	QUIVER	SHIVER	SHUDDER
with cold	○○○○○ ×○○××	×○○○× ×○○×○	×?××× ×××××	○○××× ×○×××	○○○○× ○○○○○	×?×○× ○○○××
with fear	○○○○○ ○○○×○	○○○○○ ○○○○○	○○○○○ ○×○××	×○××○ ×○○××	○○○○○ ×○○××	×○×○○ ○○○×?
with fright	○○○○○ ○○○××	○○○○○ ×○○×○	○○○○○ ○×○○×	×○×××	○○○○○ ××○××	○○×○× ○○○××
with anger	○○○○○ ○○○××	○○○○○ ○×○××	×○×××	○○×○× ○×○○×	×○×××	×○×?×
with rage	○○○○○ ○○○○○	○○○○○ ×○○×○	○○○××	×○×?×	×○×××	○○×?×
with horror	○○×○× ×○×××	○○×○× ○×○××	○○×○○ ○××××	○○×××	○○??×	○○○○○ ○○○○○
with emotion	○○○○× ○○○××	○○○○× ○○○×○	○○?××	○○○○○ ○○×○×	○○○××	○○??×
with excitement	○○×○○ ○○○××	○○○××	○○×××	○○○○× ○○○××	×○×××	×○×××
with laughter	○×○○○ ○○○○×	○××××	○××××	××○?×	×××××	×××××
with disgust	○○×○× ×○○××	○○×○× ×○○××	○○×××	○○×××	○○××○ ○××××	○○○○○ ○○○○×
with delight	○××○× ○○×××	○×××○ ○×○××	×××××	○×○××	○××××	×××○×
with admiration	○××○× ×××××	○××××	○××××	○××××	×××××	×××○×
with weakness	○××××	○×○?○ ○○×××	○××?×	○×○?×	○××○×	○××○×
with awe	○××○○ ×××××	○××○○ ×××××	○××××	○××××	○××?×	○××○×
in awe	○××○○ ××○××	○×○○○ ××○××	○××?○ ×××××	○××××	○××?×	○××○×
in horror	○○×○○ ○○×××	○○×○○ ×○×××	○○×○×	○○×○×	○○×○×	○○?○○ ○○○○×
from fear	○○○○○ ○○×××	○○?○○ ○××○○	○○×○○ ○××××	○○×○×	○○×○○ ○××××	○○×○○ ○××××
from cold	○○○○○ ○××××	×○?○○ ×××××	×○×××	○○×○×	○○○○○ ○××○○	×○×○○ ○××××
from weakness	○○×○×	○○○?×	○○×○○	○○×?○	○○×?×	○○×○×

例 1) I shiver with cold. (9○, 1×) →10名の回答者のうち9名が、横並びの動詞shiverと縦並びの「震え」の要因である with coldの連結を認めたが、1名はこれ



に反対した。

例 2) I tremble with cold. (6○, 4×) →賛成 6名, 反対 4名であった。

例 3) I quake in awe. (7×, 2○, 1?) →反対 7名, 賛成 2名, 疑問 1名であった。

【B表】は, 【A表】の○の頻度数を数値で示してある。

SHAKE (震える) に類する動詞: B表

SHAKE	TREMBLE	QUAKE	QUIVER	SHIVER	SHUDDER
10	10	10	10	10	10
	with fear				with horror
9	9	9	9	9	9
with fear				with cold	with disgust
with rage	8	8	8	8	8
	with fright	with fright	with emotion	from cold	in horror
8	7	7	7	7	7
with fright	with rage	with fear	with	with fear	
with anger	with emotion		excitement		
with laughter	7	6	6	6	6
	with anger	5	with anger	with fright	with fright
7	with excitement	with horror	with delight		
with excitement	from fear	from fear		5	5
from fear	6	4	4	from fear	with fear
6	5	in horror	with fear	4	from fear
with cold	with cold	from weakness	with fright	with disgust	4
in horror	with horror	3	with rage	in horror	with cold
from cold	with disgust	with rage	in horror	3	with rage
5	with weakness	2	3	with emotion	with emotion
with disgust	in awe	with emotion	with cold	with delight	with awe
	in horror	with	with horror	2	from cold
4	4	excitement	with disgust	with horror	from weakness
with horror	with delight	with laughter	with awe	with excitement	3
with delight	from weakness	with disgust	from fear	with weakness	in awe
in awe	3	with awe	from cold	with awe	2
from weakness	with awe	in awe	from weakness	from weakness	with anger
3	2	1	2	1	with excitement
with weakness	with awe	with anger	with weakness	with anger	with delight
with awe	from cold	with		with rage	with weakness
2	1	admiration	1	in awe	1
with admiration	with admiration	with weakness	with laughter	0	with laughter
	with laughter	from cold	with	with laughter	with admiration
1	0	0	admiration	with admiration	0
		with cold	in awe		
0		with delight	0		

アンケートの集計結果は、9章のまとめの【2】～【10】項で詳述するが、具体的・肉体的なく寒さ>から抽象的・精神的なく怒り・喜び・笑い>等に関し、さまざまな回答例が見られた。

### 6.3. アンケートから除外した動詞と情動的要因

2章で取り上げた類義語<Shake, tremble, quake, totter, quiver, shiver, shudder, quaver, wobble, teeter, shimmy, dither><rock, roll, sway, swing, vibrate, wag, wave, waver>等には人の震えに無関係な語も含まれていた。

アンケートには含めなかったが、MEDには記載されている語として次の語もある：

<quaver: [I] if your voice quavers, it is not steady because you are feeling nervous or afraid.>

<wobble: [I] 2a. if your voice wobbles, it goes up and down, usually because you are frightened or not confident, or you are trying not to cry. (MED)>.

なお、わが国で発行されている辞書には次の用例も見られる<sup>(23)</sup>：

<waver: Her voice wavered with emotion. (彼女の声は感動で震えた)>

<vibrate: Her voice vibrated with fear. (彼女の声は恐怖で震えていた) / His heart vibrated with expectation. (彼の心は期待でわくわくしていた)>

<wobble: My hands [voice] wobbled with emotion. (私の手 [声] は感激に震えた)>.

類義語辞典では古典的な存在ではあるが、セット内の類義語になっている語を、Richard Soule のDESSEから自動詞のみを引用してみよう（順序は解説に用いられている類義語の多い順による）：

<Quiver, v.i. Quake, shake, tremble, play, be agitated, shudder, shiver, vibrate, oscillate, palpitate, flutter, flickrer, twitch.>

<Tremble, v.i. 1. Quake, shake, shudder, shiver, quiver, quaver. 2. Shake, totter, oscillate, rock, quake.>

<Quake, v.i. 1. Shake, tremble, shudder, shiver, quiver. 2. Shake, tremble, vibrate,

(23) 『ジーニアス英和辞典』（大修館書店、1995）より引用。

quiver, move.>

<Quaver, v.i. Tremble, shake, quiver, vibrate, shudder, oscillate, trill, falter.>

<Shake, v.i. Tremble, quake, quiver, quaver, totter, shudder, shiver.>

<Shiver, v.i. Shudder, quake, tremble, quiver, shake.>

<Shudder, v.i. Tremble, shake, quake, quiver, shiver. (DESSE)>.

小論では人の震えを中心に扱ってきたが、以上の各類義語は、意味領域を<共有>し、隣接領域に<派生>する語が多い。2章で基本語・中核語をshake, trembleの両語の特性を比較したが、他動詞としてのshakeは<Shake, v.t. 1. make to tremble or quiver; 2. frighten; 4. Wave, oscillate, vibrate.>である。なお、さきに取り上げたwobbleの語は集録されていない。

## 7. その他の補充事項

### 7.1. 身体の部分

これまで見てきた通り、体の部分に関する情報は辞書により差異が認められる。人と体の部分を同一に扱っているものとして、次の例が挙げられる：

<shake 4. If you are shaking, or a part of your body is shaking, you are making quick, small movements that you cannot control, for example because you are cold or afraid, *He roared with laughter, shaking in his chair... My hands shook so much that I could hardly hold the microphone... I stood there, crying and shaking with fear.* (COBUILD)>

体の部分に関しては、次例のheartは2章で触れた通り体の部分の意もあるが、心の震えである：

<his heart *quaking* with panic. (MGS)>

心の震えは声の震えにも現れる：

<her voice *shook* with passion. (NODE)>

また、同節で触れた<his body *shook* with laughter (WNDS)>の例に見られる肉体としての可見のbodyと<he *shook* with fear (WNDS)>の例に見られる不可見の精神

的な震えとは異なる。

4.3節の基本語shakeの第3項には次の例文が続いている：

<shake = *My hands were shaking as I opened the envelope.*

| *By the time he'd finished the race his legs were shaking so badly he could hardly walk. (LLA)*>.

両手・両足の例があり、人の震えの要因は、すでに触れた事例である。開封した時の手の震えに類似した例は4.2節でも見られた。震えの激しさが原因で歩行困難となるのは「随伴行動」とでも称すべきもので、これに類する原因と結果の因果関係は、4章でも見られた。

## 7.2. 語源の見地からの各語の比較

辞書の解説の中には各語の特徴が示されてはいるが、5章で見た通り震えの要因は多様であり、セット内の類義語を一部の語に特定するのは危険である。語源的背景をたどり原義を比較することは示唆に富む。以下、語源に関する情報を引用してみよう。4章で触れた類義語辞典の嚆矢ともいえるべき19世紀初頭の*Crabb's English Synonyms*には、shakeを見出し語にして次の5語の語源が紹介されている：

<SHAKE, TREMBLE, SHUDDER, QUIVER, QUAKE. *Shake* is in Anglo-Saxon *sceacan*; and *shudder* is a frequentative verb based on Old Low German expressing a similar idea. *Quake* is derived from Anglo-Saxon *cwacian*, having the same meaning. *Quiver* comes from Anglo-Saxon *cwifer* in the adverb *cwifer-lice*, eagerly, *Tremble* comes from Low Latin *tremulare*, from classical Latin *tremulus*, trembling. (CRABB)>.

### 7.2.1. 基本語の本義

以下、語源に関する端的な情報をNODEから引用してみよう。わが国で出版されている学習英和辞典<sup>(24)</sup>の語源・本義に関する情報も引用し、各語のルーツを辿り

(24) 『ジーニアス英和辞典』(大修館書店, 1995). なお、同辞典の第3版(2003)では本義・原義の解説はshakeの語のみに記されている。

比較してみよう。

基本語・中核語のshakeは、<shake, ORIGIN Old English *sc(e)acan* (verb), of Germanic origin. (NODE)>は‘move quickly’の意で、≪「外部の力で物が上下・前後・左右に動く」が本義≫である。また、trembleは <tremble, ORIGIN Middle English (as a verb): from Old French *trembler*, from medieval Latin *tremulare*, from Latin *tremulus* (see. (NODE)>とあるように≪「ふるふる動く」が本義≫のラテン系の語である。

この学習英和辞典の第3版のtremorの項には、次の解説がある：

<tremor 1 (地面などの) 震動, 揺れ (shake) ; (光などの) ゆらめき; 微動  
2 (恐怖・病気・興奮などによる) 震え, 身震い, 声の震え (tremble.) >

なお、同辞典のtrembleの項には、次の例文がある：

<There was a tremble in her small voice.彼女の小さな声は震えていた (◆この文ではtremorの方が普通) >

一方、同辞典のtremulous, tremulouslyの項には、次の解説がある：

<tremulous 1 震える, おののく speak in a tremulous voice 震え声で話す 2 臆病な, びくびくする, 神経質な>

<tremulously 震えて, びくびくして>

また、tremendous, tremendouslyの項には語源的に基本語のtrembleと関係があることを示し、以下の解説がある：

<tremendous (→tremble)

1 すさまじい, ものすごい, 恐ろしい tremendous crimes committed in a war 戦争で犯した恐ろしい犯罪 a tremendous explosion すさまじい爆発

2 《略式》 (おおきさ・量・程度などが) とても大きい, 巨大な, 莫大な...

3 《略式》 すてきな, すばらしい: 並外れた a tremendous time at a party パーティーすばらしいひととき>

<tremendously 2 《略式》 とても, 非常に, 猛烈に (◆veryの強意語) It's tremendously interesting.それはとても面白い>

また、小学館『プログレッシブ英和中辞典』のquiverの項には「▼恐れで震える

時はtremble」とあるが、trembleは語源的にはカタカナ英語のギターの「トレモロ」と関係があり、物の震えと人の震えの転義の関係が示されている。学習者にとっては、基本語の習得に示唆を与えてくれる。

Collins (1968) には以下の解説があり、この語の形容詞・副詞がプラス・マイナスの両域にまたがることを示している：

<Perhaps the most commonly used of these words in both a good and a bad sense, and both adjectivally and adverbially, are **tremendous** and **tremendously**: a “tremendous pity”, a “tremendous advantage”, “tremendously pleased”, “tremendously disturbed”. (p. 77)>.

#### 7.2.2. その他の類義語の本義

OEではtrembleの意を持っていたquakeは、擬声語に端を発しているようである。なお、さきに挙げた学習英和辞典には、この語に関する記載事項はない：

<quake, ORIGIN Old English *cwacian*. (NODE)>.

Quiverは、<quiver, ORIGIN Middle English: from Old English *cwifer* ‘nimble, quick’. The initial *qu-* is probably symbokic of quick movement (as in *quaver* and *quick*). (NODE)>であり、‘nimble, quick’ ; ‘quaver, quick’ の語が示すよに≪「すばやい」が原義≫である。＜寒さ＞の描写の専売特許のように扱われているshiverは、<shiver, ORIGIN Middle English *chivere*, perhaps an alteration of dialect *chavele* ‘to chatter’, from Old English *ceafl* ‘jaw’, (NODE)>であり、先に随伴行動として1章でchatterの語を取り上げたが、≪「歯をがくがくさせる」が原義≫である。＜恐怖・戦き＞に特有のshudderは、≪「ぎくりとする」が原義≫であり、本来、基本語shakeの意を有していた：

<shudder, ORIGIN Middle English (as a verb): from Middle Dutch *schu̇deren*, from a Germanic base meaning ‘shake’. (NODE)>.

5章の「震え」の情動的要因にも関係があるが、Collins (1968) の142番目の類義語グループには<HORRIBLE, AWFUL, TERRIBLE, DREADFUL, FEARFUL, FRIGHTFUL, HORRID, TERRIFIC, TREMENDOUSの語を見出し語として次の解説がある：

<All these words are used today much more commonly in the trivial sense of “disagreeable” than with their original meaning of inspiring horror, awe, etc. (p. 76)>

プラス・マイナスの情動的要因で触れた語に関して、比喩的な解説も見られる：

<Without exaggeration or perversion of their primary senses a “difficulty” might properly be said to be “tremendous”; a “prospect” (figuratively), “dreadful”; a “crime”, “horrible”, and so on. (Choice, p. 76)>.

### 7.2.3. コンパクトな語源辞典からの情報

CEEDによると、基本語・中核語としてはshakeよりはtrembleの方が意味領域が広い：

<tremble, v.i. to shake, shiver, as from fear, cold, or weakness: (*fig.*) to be alarmed, fear greatly (to think, for a person, at something): to quiver, vibrate (e.g. of sound, leaves, and *fig.* one’s fate.) ... [O.Fr. *trembler*--L. *tremulus*, trembling--*tremere*, to shake.]>

<shake, v.i. to be agitated: to tremble: to trill. ... O.E. *šc(e)acan*.]>.

上記のように比喩化を扱った語は、アンケートから除外した語にも見られる：

<wobble, v.i. to rock unsteadily from side to side: (*fig.*) to waver, to vacillate. [Low Ger. *wabbelen*; cog. with *waver*.] (CEED)>.

その他の類義語に関しては、以下の解説がある：

<quake, v.i. to tremble, esp. with cold or fear: to quiver. ... [O.E. *cwacian*; perh. allied to *quick*.]>

<shudder, v.i. to shiver as from cold or horror: to vibrate. [Cf. Ger. *schaudern*.>

<shiver, v.i. to quiver or tremble, to make an involuntary movement as with cold or fear. [M.E. *chivere*; origin obscure.]>

<quaver, v.i. to tremble, quiver... esp. of the voice ... [Frequentative--obs. or dial. *quave* M.E. *cwavie*, to shake; akin to quake.]>

<quiver, v.i. to shake with slight and tremulous motion: to tremble, to shiver. [Perh. O.E. *cwifer*, seen in adv. *cwiferlice*, eagerly.]>

<vibrate, v.i. to shake, to quiver: ... [L. *vibrare*, -atum, to tremble.]>

<v.t. waver, to move uncertainly or unsteadily to and fro, to shake: falter, to be  
issolute. [O.E. *wafian*, to wave; cf. O.N. *wafra*, to waver.] (CEED)>.

これらの情報を整理すると、次のように要約できる：

1) セット内の他の類義語による解説が多い。2) 震えの要因は<寒さ・恐れ>が圧倒的に多い。3) 語源が不明な語もある。4) 震えに関するセット内の類義語も、意味領域を共有し隣接領域に派生する。5) 字義的から比喩的な意味へ移行する最初の事例は文学作品に登場したと思われる。その昔、アリストテレスがAn arrow flies.と言ったときに、周囲の人びとは目を見張ったという逸話があるが、まさに、Painters and poets have leave to lie. (画家と詩人は嘘をつく許可を持っている) ないしは、Poets are the fathers of lies.の英諺が示す通りである。とかく絵や詩には誇張法 (hyperbole) が多く、絵空事の描写が見られる。

## 8. 日本語からのアプローチ

### 8.1. 文体のレベル

これまで述べてきた英語中心の類義語は、文体に関する言及は皆無に等しかった。日本語に見られる文体のレベルに関する情報を中心にセット内の類義語を考えてみたい。近刊の『類語大辞典』には、以下のような「震える」の文語の例が記載されている<sup>(25)</sup>：

<10【震撼する】[文] 震え上がる。「世界を震撼させるような事件が起こった」

11【震駭 (しんがい) する】[文] 驚いて震え上がること。「世を震駭させた凶悪な事件」

12【震慄 (しんりつ) する】[文] 恐ろしくて震え上がること。「皆震慄して一步退く」>

---

(25) 柴田武・山田進編。講談社 (2002)。pp. 182-183. 本辞典の編集方針は、「おびえる」の項に1403の番号を付し、その下位区分に<a.動詞の類>として、00【怯える】01【びくつく】を設けている。



こうした音読みの震えは、震えプラス「上がる」で強意・強調の含みがあり、  
<13【戦慄する】恐ろしくて身震いすること。「残忍な殺人に戦慄する」「戦慄を覚  
える」>も同工異曲と言えよう。

前出の10～12に先立ち、「●震える」の冒頭には次の解説がある：

<02【震える】恐ろしさ・興奮・寒さなどで体またはその一部分が小刻みに動く。  
「あまりのこわさに足が震えて歩けなかった」◆「おびえる」「おののく」が体全  
体の震えをさすのに対して、「震える」は、体の一部分でもいい。>

これまで取り上げてきた「体またはその一部分」とか随伴行動の「足が震えて歩  
けなかった」に言及している。随伴行動については1.1節の少年少女向け辞書の  
<寒さ>に関して、He is shivering. His teeth are chattering.の例文を引用し動詞  
chatterに触れたが、次の項と比較してみたい：

<15【歯の根が合わない】恐怖や寒さで体や口元が震えて止まらない。「恐ろし  
くて歯の根が合わない」>

見出し番号10～12が音読みで文語調の強度の震えであるのに対し、俗語のラベル  
が貼られているものに次の解説がある：

<07【がたつく】[俗] 恐怖や寒さで体ががたがた震える。「あまりのことに足が  
がたついて歩けない」>。

## 8.2. 知と情の対立

震えの描写にも驚き・憎しみと同様に、「うそ発見器」に対応する a polygraph と  
a lie detector とか、「花粉症」に対応する pollinosis と hay fever 等のような言語の知と  
情の対立が見られる場合がある。日常会話では「助けて！」を「救助して！」とは  
言わないで Help! が自然であり、ラテン系の語は用いられない。音読みの文語に対  
して、訓読みで口語・俗語の「がたがた震える」は擬声語・擬態語的色彩を帯びる。  
7.3節の語源的見地からの各語の比較で取り上げたものにも、擬声語・擬態語に類  
する次の語が登場した：

【i】<shiver<<「歯をがくがくさせる」が原義>>

【ii】<tremble<<「ぶるぶる動く」が本義>>

【iii】<shudder<<「ぎくりとする」が原義>>

この順序は、高木（1968, 1969）で仮称した音声象徴（sound symbolism）の3つの下位区分、【i】 sound imitation（擬声語）、【ii】 appearance association（擬態語）、【iii】 mind description（擬心語）に準ずるものである。これらを『類語大辞典』の「f. 副詞の類」から程度・様態を表している次の用例と比較してみよう：

<【i】06【がたがたと／する】恐怖などで激しく体が震える様子。「目の前の惨劇に、彼女はがたがた（と）震えていた」◆「ぶるぶる」より動きが大きい。

【ii】07【がくがくとする】恐怖・疲労などで体の関節が大きく震える様子。「陰惨な光景に彼女のひざががくがく（と）震えているのが見て取れた」

05【ぶるぶると】恐怖などで体が小刻みに震える様子。「恐怖のあまり言葉もなく、ただぶるぶる（と）震える」

【iii】04【わなわなと】わななく様子。「よほどこわい目にあっただろう、わなわな（と）震えている」>。

その他「f. 副詞の類」の次の例も挙げられる：

<【i】02【どきどきと／する】不安・恐怖・期待などから心臓が続けて激しく鼓動する様子。「つり橋が今にも落ちそうでどきどきした」「本番の前に心臓がどきどきと鳴った」>

<【ii】00【びくびくと／する】悪いことが起こりはしないかとおびえる様子。「しかられはしないかとびくびく（と）する」>。

この順序は、聴覚に訴える擬声語・視覚に訴える擬態語・これら両感覚より抽象度の高い擬心語とも言えるものとのを、配列したに過ぎない。「わなわな震える」は、<激しい怒り・恐れ・寒さなどでからだの小刻みにふるえるさま。ぶるぶる。「（と）身をふるわせる」「怒りに唇を一させる」>（『大辞泉』）><quiver; tremble; shiver（with cold）; be all of a tremble.（『新和英大辞典』）>であるが、『類義語大辞典』の解説<06【戦慄く（わななく）】恐ろしさ・興奮などで、体がぶるぶると震える。「恐怖にわななく」>の動詞よりは、重畳（reduplication）である点と、聴覚・視覚の例に見られる濁音のが行・だ行・ば行よりは、わ行である点で第六感的で擬心語的な色彩が強いと言えよう。

外界からの刺激に反応する1）見て（視覚）、2）聞いて（聴覚）、3）触って

(冷たさ), 4) 匂いをかいで (嗅覚), 5) 味わって (味覚) の五感は, 心理学の共感覚 (synesthesia) であり, 「興奮為て熱くなる」のようなtype-crossingの例が見られる。小論で扱ったtremble, shiver, quiver, shudderは, 英語における動作の反復を表す反復相 (frequentative suffix) の動詞crackle (パチパチ音を立てる), twinkle (キラキラ光る)に通じ, 類義語セットとしては含めなかったが, 擬声語のchatter (<歯などが>ガチガチ鳴る; (興奮して) ガタガタ震える), 擬態語のwaver (<声などが>震える) と共通点がある。

### 8.3. プラス・マイナスの要因

同辞典にはマイナス感情の寒さから派生する次のような特異な震えが挙げられている:

<03【寒気】恐怖などで体に寒気を感じる。こと。「あまりの冷酷さに寒気がする」>

<「●ぞっとする様子」>

08【ぞっとする】恐ろしさのために, 急に水を浴びたような冷たさを感じる様子。

「事故の生々しさにぞっとする」

【寒け】09【ぞくっとする】恐ろしさを肌で感じて, 急に寒けを感じる様子。「ナイフの刃を見てぞくとした」

10【ぞくぞくと／する】恐ろしさを肌で感じて背筋から冷たい風が吹き込んできたような感じがする様子。「恐怖映画を見てぞくぞくした」>

<◆「ぞくぞくするような美人」のように, 興奮・感動したときの様子について用いられることが多い。>

最後の例は, マイナス感情からプラス感情に移るものであり, 前章で取り上げたtrembleから派生したtremendous, tremendouslyの英語の例と好一対である。また, 「●寒気立つ」の見出しで, 次のような温感による表現があり, 例17は3.4節の「背筋がぞくっとする」のshudderに通じる:

<16【寒気立つ】><17【背筋が寒くなる】><20【身の毛が弥立つ (よだつ)】>  
<23【鳥肌が立つ】>。

こうした現象は言語に普遍的なものであろう。これまで取り上げてきた類義語は, 要因の特定ができなく, 辞書により解説がまちまちで差異があることが認められる。

アンケートの集計結果が回答者により異なる理由として、手の震えも修辞学の提喻 (synecdoche) が sail で ship を表すように、一部で全体を・全体で一部を表す法に似て転義の絆が曖昧なこと、知と情の対立があり個人により文体のレベルが異なること、プラス要因からマイナス要因に移る事例は恣意的であること等が挙げられよう。

## 9. まとめ

動詞 tremble, shake を取り巻く類義語を、各語の固有素性・文脈素性を明らかにするため、先行研究には見られぬアプローチをとった。これまで検討してきた事柄を総括し、結論として以下に箇条書きで示す事柄が指摘できる：

【1】このセット内の類義語に関する情報を、人間・体の部分・声のみに限定し、「震える」に関する動詞の特性を比較すると、一般的な語 shake ないしは tremble を基本語・中核語として定め（以下、「まとめ」では、すべて大文字で示す）、この2語をベースにして解説をした事例が多い。一例を *NODE* から引用してみよう（下線部は程度・様態を表す副詞を、波線は「震え」の原因ないしは随伴する感情を、イタリック体は解説に用いられたセット内の他の類義語を、それぞれ示す）：

<“SHAKE = *TREMBLE* uncontrollably from a strong emotion such as fear or anger / *TREMBLE* = *SHAKE* involuntarily, typically as a result of anxiety, excitement, or frailty / quake = *SHAKE* or shudder with fear / quiver = *TREMBLE* with sudden strong emotion / shiver = *SHAKE* slightly and uncontrollably as a result of being cold, frightened, or excited / shudder = *TREMBLE* convulsively, typically as a result of fear or repugnance.” (*NODE*)>.

【2】「震える」の強さ・度合いは、その要因とそれに伴う感情に応じて動詞が特定される傾向はあるが、辞書・文献により情報に差異がある事例もあるので、*Shake, Tremble, Quake, Quiver, Shiver, Shudder* の6語を選び震えの刺激となる肉体的・精神的要因を設けて10人の英語母語話者を対象としたアンケートを作成した。A表・B表に示された集計結果から次の事柄が指摘できる：

肉体的なく寒さ>はshiverとの結合度が高く、shiver with cold (9-0-1), shiver from cold (8-0-2)であった。体力的・精神的なく衰弱>は回答者により容認度が異なり、インフォーマント1はすべての動詞との結合を認めている半面、インフォーマント10はこれに反対している。また、インフォーマント4は衰弱に関する12項目の問いに対し6個の?印を付している。

【3】震えの要因は1.1節で述べた通り、肉体的な寒さに起因するものが多い。A表・B表で示したように、寒さはquake from cold (1), quake with cold (0)は例外であるが、shiver以外のセット内のすべての動詞と結合する。肉体的なものと同精神的・感情的なものがあり相乗的に作用すると言えよう。このことは、5.3節で触れた要因の多様性と、その具体例で指摘した形容詞・名詞の形による複数の波線部がオーバーラップしていることから知る事ができる。

【4】精神的な反応としての<恐怖・おびえ>は中核語との結合度が高く、shake with fear (9-0-1), tremble with fear (10-0-0)であるが、quiver from fear (3-0-7), shudder with fear (6-1-3)のように予想外に低い場合もある。<突然の激しい恐怖・驚き>のwith frightはshake, tremble, quakeがそれぞれ(8-0-2), shiver, shudderが(6-0-4), quiverが(4-0-6)で、震えの動作は、突然急に(shake), 瞬間的にふるっと(shiver), 激しく急に(shudder)等の時間的要因によって特徴づけられる。嫌悪感を伴う恐怖はshudderとの結合が密であるが、quiver with horror (3-0-7), shiver with horror (2-2-6)等のバラツキも見られる。<畏怖>に関しては、shake with awe (3-0-7), shudder in awe (3-0-7)であった。

【5】一般に<怒り>を表すとされている語は、shake with anger (8-0-2), <激怒>の意では、shake with rage (10-0-0)のように賛同者が多かったが、その他、tremble with anger (7-0-3), quiver with anger (6-0-4), quiver with rage (4-1-5)のような事例も見られた。

【6】感情の吐露が<激情・感動><興奮>などのプラス感情の場合の震えは、2語の中核語と併用される傾向がある。ただし、<感嘆>を示すwith admirationは、このセット内の各語との結び付きが悪く、総計わずか7例だった：shake (2), tremble (2), quake (1), quiver (1), shudder (1)。

【7】喜怒哀楽のうち、プラス感情の<悦び・笑い>が「<嫌悪・激しい反感>

などから発作的に、急激に、痙攣して震える」意のshudderとは結合しないのは当然ではある。感情が肉体的な表情に出たものと思われるものとして、shake with delight (4-0-6), shiver with delight (6-0-4) が挙げられるが、shake with laughter (8-0-2) のように抱腹絶倒に近い例も見られた。

【8】Shiverは<笑い・感嘆>とは結び付かず、quakeは<寒さ・喜び>とは結び付かない等の特性が指摘される。shudderはhorror, disgust, fright, fearとの結合度が高くshudder with disgust (9-0-1) であり、<嫌悪感>を示す語である。

【9】回答結果には辞書類から得た情報とは異なる見解もある。例えば、<怒り>はquakeとangerとの結合はないとしている辞書もあるが、回答結果はquake with anger (9-0-1) であった。また、quakeと<寒さ>との結び付きを載せている辞書もあるが、回答結果ではquakeと<寒さ・悦び>との結合は皆無だった。

【10】B表に示された回答数を各1点として集計すると、一般的なshakeは110点、trembleは103点であり、以下順にshudder (72), quiver (69), shiver (62), quake (52) となる。これは人の震えに用いられる頻度数にあたるが、7.2節で述べた語源的背景から推論して擬人化された経緯が伺われる語もある。

【11】動詞を中心に検討してきたが、形容詞<<shaky 《やや略式》<声・からだなどが>震える (trembling), よろよろする || a shaky hand [voice]震える手 [声] /I feel shaky since I was sick. 病気になってから体が震えるのを感じる>>や<<shivery 《やや略式》ぶるぶる震える;ぞくぞくする (ほど寒い)>><sup>(26)</sup>の震えとも比較したい。

【12】形容詞のみでなく、名詞形にも注意を喚起したい。上位生対象の発信型教授法では、以下のような名詞形に見られる非人称主語の文や定冠詞・不定冠詞の違いにも留意させたい：

*<A sudden shiver ran through her whole body.*

*I felt a tiny shiver of excitement on hearing the news. (MED)>*

*<He felt a quiver of excitement run through him.*

(26) << >>内は『ジーニアス和英辞典』(大修館, 1997)のshaky, shiveryの項より引用。なお、2001年の第3版では、両語とに付された文体上のラベルと、前者の I feel shaky since I was sick.の例文は削除されている。

◇*Jane couldn't help the quiver in her voice. (OALD 6)*>.

【13】発信型教授法に関係することで、日本語から英語への転換に際して、程度の差を示す震えの亜種、例えば、<「震え上がる」*tremble violently*>のような副詞の追加、<「おびえる」*be terrified; be frightened to death*>のような通例はこの類義語のセット外として扱われる動詞の利用、<「その恐ろしい声に彼らは震え上がった」*The horrible voice struck terror into them.*／「その報せに皆は震え上がった」*The news made everyone tremble.*><sup>(27)</sup>のような英語の対応例を示すのも一案である。

【14】文法的なことであるが、次のような使役動詞を用いた用例にも習熟させたい：

<*Just thinking about the accident makes me shudder. (OALD 6)*>.

その他、小論でも英米の辞書類の用例を数カ所で引用した。前項の和英辞典でも、こうした非人称主語の例が用いられている。動詞の類語語に関する考察は、セット内の個々の動詞の対比を中心に展開されるが、さまざまなコンテキストの用法も比較の対象にしたい。

【15】コーパス (Corpus) 分析からの情報に関しては、高木 (2000) の<驚く>及び高木 (2001) の<嫌う・憎む>で触れたが、今回はコーパスを利用した辞書からの用例を引用したので割愛した。小論とは無関係と思われる「武者震い・尿意を催すときの震え」等の異質な震えに対応する英語の用例を検索することも望まれる。震えの情動的要因に関しては、「閾値」と称される「生体の感覚に興奮を生じさせるために必要な刺激の最小値。(大辞泉)」に関する先行研究の成果も取り入れたい。

【16】冒頭で触れた高木 (2000)、高木 (2001) 及び小論で扱ったSHAKE (震える) に類する動詞と併せて、これら3セットに共通の精神的深層構造が見られる。SURPRISE (驚く) に類する動詞は受動的で外界からの刺激に反応して驚き、HATE (嫌う・憎む) に類する動詞は能動的で不愉快な感情を吐露し五感の違いによる嫌悪感を表出し情動発散するが、今回、俎上にのせたSHAKE (震える) に類する動詞は両者の中間的である、と言えよう。この3セットの動詞は喜怒哀楽を感

(27) < >内の例は、『プログレッシブ中和英辞典』(小学館、第1版第1刷1986年、第2版第3刷1994年)の「震える」の項より引用。

じる時間的順序に関係があり、SURPRISE→HATE→SHAKEの場合もあろうし、SURPRISE→SHAKE→HATEの場合もあろう。外界からの刺激で驚き、不快感 (unpleasant) を伴えば嫌い・憎み、その結果、震えることもあろう。5.3.1節の多様性の具体異例の見出し語には【unpleasant】を取り上げたが、その情動的要因となる<disagreeable>に類するマイナス感情の形容詞も再吟味する必要がある。形容詞detestableの項には次の例文が見られる：

<detestable *adj.* that deserves to be hated: *All terrorist crime is detestable, whoever the victims.* ◇*'You're detestable!' she said, shaking.* (OALD 6).>

【17】5.3節の第8項で触れた「情的要因・随伴感情」と動詞screamのような「随伴行動」の事例は、頻繁に見られた。嫌悪感を示す with disgust もこれに類すると言えよう。内部に蓄積された鬱憤の思いは、外界からの刺激が突然の場合、それに対して反応する際の時間的要因は瞬間的である。震えの動作が嫌悪と密接に関係があることは、高木 (2000) 及び高木 (2001) でも取り上げたが、これら3セットに共通する<驚き・喜び・怒り・恐れ・憎しみ・悲しみ>等の情動に関する心理構造の比較と相関関係の分析は、またの機会に譲りたい。

参考文献・辞典 (末尾は本稿で用いた略称を示す)。

- The American Thesaurus of Slang.* (1954). London: Harrap. (ATS)
- Chambers Etymological English Dictionary.* (1968) 1st ed, New York: W. & R. Chambers, Ltd. (CEED)
- Collins COBUILD English Dictionary.* (1995). London: HarperCollins Publishers. (COBUILD)
- Collins, V. H. (1968, Eighth impression). *The Choice of Words*, London and Harlow: Longmans.
- The Concise Oxford Dictionary of Current English.* (1990). 8th ed. Oxford: Clarendon Press. (COD)
- Crabb, G. (1816, First published. Reprinted, 1919 and 1966). *Crabb's English Synonyms*, London: Routledge & Kegan Paul Ltd. (CRABB)
- Günther, J. H. A, First published 1904, Fifth edition (Revised) 1928. *English Synonyms and Homonyms* (Volume II. *A Handbook of English Idioms*). The Hague.
- Hayakawa, S. I. (1968). *Modern Guide to Synonyms and Related Words*. New York: Funk & Wagnalls. (MGS)



- 井上義昌. (1956). 『英語類語辞典』 開拓社.
- JACET語法研究会編. (2000). 『動詞の類義語の研究—日英語の比較の観点から—』 大学英語教育学会.
- Landau, S. I. (1984). *Dictionaries: The Art and Craft of Lexicography*. New York: Charles Scribner's Sons. [児島義郎他訳『辞書学のすべて』1988. 研究社].
- Longman Advanced American Dictionary*. (2000). 1st ed, Pearson Education Limited. (LAAD)
- Longman Dictionary of Contemporary English*. (1987). 2nd ed, Harlow: Longman. (LDOCE)
- Longman Essential Activator*. (1997). Addison Wesley Longman Limited. (LEA)
- Longman Language Activator*. (1993). Harlow: Longman. (LLA)
- Macmillan English Dictionary for Advanced Learners of American English*. (2002). (MED)
- 松本安弘・松本アイリン. (1992). 『日本語で引く英語類語辞典』 北星堂書店.
- The New Oxford Dictionary of English*. (1998). Oxford University Press. (NODE)
- Oxford Advanced Learner's Dictionary of English*. (1995). 5th ed. London: Oxford University Press. (OALD 5)
- Oxford Advanced Learner's Dictionary of English*. (2000). 6th ed. London: Oxford University Press. (OALD 6)
- Oxford Learner's Wordfinder Dictionary*. (1997). Oxford University Press. (OLWD)
- The Oxford English Dictionary*. (1982). Oxford University Press. (OED)
- The Oxford Study Thesaurus*. (1991). Oxford University Press. (OST)
- The Oxford Thesaurus*. (1991). Oxford University Press. (OT)
- The Random House Unabridged Dictionary*. (1993). 2nd ed, New York: Random House. (RHD)
- Rodal, J. I. et al. (1987). *The Synonym Finder*. Tokyo: Meirin Shuppan.
- Rudzka, B, et al. (1985). *More Words You Need*. London and Basingstoke: Macmillan Publishers Ltd. (MWYN)
- Rudzka, B, et al. (1981). *The Words You Need*. London and Basingstoke: Macmillan Publishers Ltd. (WYN)
- 柴田武・山田進編. (2002). 『類語大辞典』 講談社.
- The New Shorter Oxford Dictionary*. (1993). 3rd ed, Clarendon: Oxford University Press. (SOD)
- Dictionary of English Synonyms and Synonymous Expressions*. (1964). Reprinted, London: Frederick Warne & Co. Ltd. (DESSE)
- 高木道信. (1972). 「同義性の一局面—動詞 'die' を狙上のにのせて—」『千葉商大論叢』第17巻A号.
- 高木道信. (1993). 「<瘦せた>をめぐる英語の形容詞の類義語」『千葉商大紀要』第31巻 第1・第2合併号.
- 高木道信. (1994a). 「婉曲語法の一断面」『千葉商大紀要』第32巻 第1・第2合併号.
- 高木道信. (1994b). 「意味の弁別的素性に見られるプラス・マイナスのイメージ」『人間と言語—勇康雄先生喜寿記念』リーベル出版.
- 高木道信. (1998). 「形容詞timidとその語彙連結」『英語学の諸相—牧野勤教授定年記念

論文集』英潮社。

高木道信. (2000). 「動詞の類義語間に見られる強さの程度の差—Surpriseとその類義語の事例—」『千葉商大紀要』第38巻 第2・第3合併号.

高木道信. (2001). 「嫌悪感の諸相—動詞hateとその類義語の事例—」『千葉商大紀要』第39巻 第1・第2合併号.

Takagi, M. (1968). Sound Symbolism and What It Suggests. (英文)『千葉商大論叢』第10号.

Takagi, M. (1969). Consonant Tone-Color in English. (英文)『千葉商大論叢』第11号.

Thomas, O. (1969). *Metaphor and Related Subjects*. New York: Random House. [田中春美・高木道信訳『比喩の研究—言語と文学の接点』1977. 英潮社].

*Webster's Compact Dictionary of Synonyms*. (1973). 4th ed, Springfield, Mass.: Merriam-Webster.

*Webster's Dictionary of American English*. (1997). New York: Random House. (WDAE)

*Webster's New Dictionary of Synonyms*. (1973). 4th ed. (WNDS)